

令和4年度 活動実績報告書



長岡崇徳大学

目 次

1) 教務委員会	1
2) 入試委員会	4
3) 学生委員会	8
4) 広報委員会	14
5) 学術委員会	16
6) F D委員会	17
7) 研究倫理委員会	19
8) 地域連携・貢献委員会	21
9) 大学連携委員会	23
10) 国際交流委員会	25
11) 実習委員会	27
12) 国家試験対策委員会	32
13) 図書館運営委員会	33
14) アドバイザーⅡ期生	36
15) アドバイザーⅢ期生	37
16) アドバイザーⅣ期生	37
17) アドバイザーⅤ期生	37
18) 子育て支援事業	38
19) 高大連携ワーキンググループ	41
20) リカレント教育ワーキンググループ	42
21) 教育D X推進会議	43

長岡崇徳大学 看護学部看護学科 PDCAサイクルシート

※委員会名:順不同

看護学部・看護学科の目標						
令和4年度				令和5年度		
<p>1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。</p> <p>2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。</p> <p>3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。</p>				<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する</p> <p>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る</p> <p>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする</p> <p>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>		
年度当初記載		年度末記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題
教務委員会	1. 教務に関する適切な所掌事項の運用を行う。	<p>1について</p> <p>①シラバス作成にあたり、「シラバス記載時のポイント」を添えて依頼する。非常勤講師についても到達目標や評価、予習・復習等が明確に記載されるように依頼していく。</p> <p>②3月上旬までに時間割を作成する。</p> <p>③定期試験および再・追試験を円滑に実施する。</p>	<p>① シラバス作成 次年度の担当教員が決定する時期が遅くなったため、担当者が不明の科目に関しては今年度の担当教員宛に依頼し、担当が変わる場合は来年度の担当教員との調整を依頼した。期限も昨年より1週間遅く1月27日とした。修正が必要な科目に関して修正を依頼し3月10日までの期限とした。</p> <p>② 時間割作成 次年度の担当教員が決定されていなかった科目が多く、作業が遅れ1月下旬から作成を開始した。希望調査申請書の提出が遅れた者、締め切り日を超過して申請を再度申し出た者など、一通り作成しても完成せず修正を繰り返し、3月教授会前日に公表にたどり着いた。3月中旬を目途に再修正し、完成版を提出できる状況に至った。外部講師の日程の要望および当該学年必修科目未履修の科目を最優先として作成した。しかし選択科目は、重複を避けられず選択が難しくなった科目があった。</p> <p>※授業・演習 COVIT19の濃厚接触者に対して、学内の教員で可能な場合、ZOOMで授業を行い出席とすることとした。大雪による影響で12月末から1月にかけて休講の日が数日あり、時間割の調整を行った。</p> <p>③ 定期試験・成績 講義・演習についてはCOVIT19の濃厚接触者に対して、学内の教員で可能な場合、ZOOMで授業を行い出席とすることとした。大雪による影響で12月末から1月にかけて休講の日が数日あり、時間割の調整を行った。試験期間については、昨年の課題をふまえて日程等を調整し、実施した。大雪による試験日の変更やCOVIT19陽性者・濃厚接触者の追再試の日程調整が必要となった。後期試験は判定会議を行うことができたが、前期試験の成績は教授会に出す前に学生に通知する結果となった。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・シラバス作成ガイドライン ・シラバス各項目の記載の仕方と留意点 ・シラバス記載例</p> <p>時間割、時間割希望調査申請書</p> <p>試験に関する確認事項 試験日程表</p>	<p>① シラバス 科目担当教員が決定するのが遅れたため、依頼の遅れが生じ、十分な修正を依頼することは難しかったためBとした。12月末には科目の担当教員が決まるよう学部長に依頼していく。</p> <p>② 時間割作成 科目担当教員が決定するのが遅れたため、時間割作成の開始が例年より1カ月遅くなった。それに加えカリキュラムの変更に伴う時間割の調整が必要であったことや非常勤講師が多く希望に重なりが生じたこと、さらに単位を落とし配慮が必要な学生が各学年に数名いたため、とても煩雑な作業となった。そのため、教授会に案を出すのが1か月遅れることとなり、確認・修正期間が短くなった。シラバスと同様、科目の担当教員は12月末までに決めてもらうよう依頼していく。</p> <p>大雪等で休校になった場合のオンライン授業について今後検討していく。また、オンライン授業を実施するにあたってはZOOMでの授業になれていない1、2年生へのオリエンテーションを検討する必要がある。 4年生後期の選択科目は選択者がいないため開講しない科目も多かったため、選択科目の開講の時期等、検討していく必要がある</p> <p>③定期試験・成績 前期・後期とも支障なく定期試験を実施した。しかし前期試験の成績は教授会に出す前に学生に通知する結果となったため評価を「B」とした。次年度は判定会議で審議できるようにする。</p>
年度当初記載		年度当初記載				
委員会目標	年間計画					
1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する	① 学年歴、時間割にそった教育課程の運営を行う。	<p>1 ① 学年歴、時間割にそった教育課程の運営を行う。</p> <p>② 定期試験、再・追試験を円滑に実施する。</p> <p>③ 入学前教育の見直し2024年度案を作成する。</p> <p>④ 2024年度学年歴、時間割の確定は3月上旬とする。</p> <p>2 専門科目授業内容の把握</p> <p>① 基礎看護技術の授業状況を把握し課題を見出す。</p> <p>② 看護過程の授業状況を把握し課題を見出す。</p>				

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
教務委員会		<p>④教務システムが円滑に運用されるようにする。</p> <p>⑤便覧を作成し、新カリキュラムの新入生に修学ガイダンスを行う。</p> <p>⑥その他「新たな事項」に対し、適宜対応する。</p>	<p>④ 教務システム 前・後期にオリエンテーションを行い、活用の周知を図った。</p> <p>⑤ 学生便覧の作成 2022年度の便覧を見直し2023年度入学者用の学生便覧を作成した。</p> <p>⑥ その他 【長岡市内大学との単位互換】 次年度の単位互換の科目について希望をとり、委員会で確認を行った。</p>	A	前期・後期オリエンテーションスケジュール表				
	2 履修指導を行う。	2 履修指導を行い、学生がスムーズに履修登録および履修計画が立てられるようにする。	1年生に対し、前期の初め(履修登録前)に履修ガイドに沿って履修指導を行った。	B	履修ガイド	2.履修指導 1年次の履修登録前に履修指導を行うことができたが、今年度基礎科目の選択科目をほとんど履修しない学生が2名いたため評価を「B」とした。1年次の履修指導の際には計画的に履修できるような学生に指導していく。	2 学生への学習支援を行う。	2 ①入学時、前期・後期オリエンテーションおよび1年生に対する履修指導 ②学生の学習状況に諸事が発生した場合、アドバイザーと連携し支援を行う。	
	3 入学前教育の内容を再検討し、実施する	3 入学前教育の教材等について再検討し、2023年度入学生に対し、入学前教育を実施する。	3 入学前教育の内容の再検討を行い、今年度も昨年と同様に株式会社ナガセに依頼し、2022年12月末までに入学が決定した生徒に対して入学前教育を実施した。「生物」「化学」を履修していない入学者が多い傾向から、任意受講としている「医療・栄養系化学入門」を、入門編である「ベーシック化学」に変更した。さらに、確認テストであるプレイズメントテストは、受講後のみに変更し業者に依頼した。昨年度の変更点や書類授受に関して、業者からの連絡が滞り、複数回にわたって催促した。	A	入学前教育案内文	3.入学前教育 講座内容について検討し、より入学者が取り組みやすい内容に変更した。さらに、受講前後で行っていたプレイズメントテストの意義を再検討し、今年度は受講後のみに変更した。したがって評価を「A」とした。 契約書の遅れ等、業者への確認が複数回必要であった。次年度は業者の変更も含めて、入学前教育の内容を検討していく。	3 規定の見直しおよび新規(案)の検討を行う	3 ①試験監督業務と担当者決定に関する約束事 ②定期試験疑義申し立て規程 ③大雪警報時のオンライン授業 ④特別講座 ⑤ICT関連	

看護学部・看護学科の目標								
令和4年度				令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
3. 看護の専門性を高める教育を推進していく								
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
教務委員会	4 看護課題研究を実施する	4 看護課題研究が円滑に実施されるようにする ① 6月上旬に研究フィールドを調整する。 ② 11月中旬の研究発表会を運営する ③ 2月下旬までに卒業研究のゼミの振り分けを行う。	4.看護課題研究 1期生38名の看護課題研究は、25名の指導教員によって4月から11月にわたってスケジュール通りに行なわれた。当初の日程に記載されていなかった内容として、「仮テーマの申請」(8月23日)、研究発表会に向けたオリエンテーション(10月25日)を実施し、発表会の司会進行やマイク係を発表グループから選出してもらった。研究論文締切日に全員の提出があり、発表会は進学受験による1名の欠席以外は全員参加で、2、3年生の参加(3年は全員参加としたが1名欠、2年生は5名参加)を得て、3会場に分かれて発表会を行った。教務委員が全員で分担して、発表会プログラムの作成、1～4年生および教員数の印刷、ならびに発表スライドの印刷を会場別に印刷し、発表会の準備とした。発表会は、学生による司会進行により3会場とも円滑に進めることができ、2、3年生を含めて概ね活発な質疑応答を行うことができた。 次年度の要項に関しては、特に文献研究の場合の倫理チェック表が課題となったため検討と改訂を行った。また、発表会終了後の教員向けアンケートを参考にして、①研究参加の同意撤回書の追加、②研究論文作成要領の改訂、③研究発表用抄録作成についての追加を行なった。 3年生(2期生)の実習終了後、1月23日(月)次年度に向けた看護課題研究オリエンテーションを実施した。研究希望第3位までのテーマの提出から、研究指導教員の指導人数に合わせて学生の配置を決定し、3月6日(月)に教員および学生に結果を周知した。	A	・2022年度看護課題研究要項 ・教員向けメール ・教授会資料 ・看護課題研究発表会オリエンテーション 資料 ・2022年度看護課題研究発表会プログラム、および発表資料 ・2023年度看護課題研究要項 ・看護課題研究テーマ希望調査結果 会議資料	4.看護課題研究 教務委員会として、1期生の看護課題研究を指導教員と協働して取り組んだ。倫理チェック表の使い方、研究フィールドの調整など若干の課題は残ったが、38名の学生の研究指導を完了することができ、次年度への課題の確認もできたためA評価とした。 次年度は、初年度の振り返り点の改善と充実を目指して、今年度よりも多くの学生の指導を行うことに起因する課題を克服していくことが課題である。	4 看護課題研究の実施・評価を行う。	4 ①4年生 6月上旬 研究フィールド調整 11月中旬 研究発表会企画・運営 ②3年生 1月頃 オリエンテーション 2月 学生配置を決定し周知
	5 特別講座を行う。	5 特別講座を行う。	5 11月に4年生向けの特別講座(テーマ:医療情報システムの実践、講師:魚沼基幹病院 寺島先生)を実施した。参加者は4年生9名であった。12月に特別講座(テーマ:リラクゼーション法、講師:母性看護学 佐藤先生)を実施した。参加者は2年生3名、教員3名であった。	B	特別講座チラシ	5.特別講座 コロナ禍の関係上、対面での開催の判断は難しい状況である。実習前ということもあり、2年生を対象にリラクゼーション法についての講座を企画した。ポスター及び講義後に学生に募集を呼び掛けたものの参加者が少なかったことから評価を「B」とした。次年度は特別講座のあり方についての検討が必要である。	5 特別講座を行う。	5 特別講座企画・実施

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
入試委員会 (R5年度より広報委員会と合併)	1 規定に基づき、入学者の選抜、大学入学共通テストの実施、についてとどこおりになく、実施できる	1) 区分に合わせた入学者の選抜を行うための日程、人員を確保、偏りが少なく配置する。 2) 長岡技大と連携し、大学入学共通テストに必要な要因を確保し、派遣する。 3) 外部の試験問題出題者・問題の確認者の確保と依頼 4) 入試問題内部点検基準の作成	1) 区分に合わせた入学者の選抜を行うための日程、人員を確保、偏りが少なく配置できた。 ・教員に関しては業務にあたった回数は2～4回だった。概ね3回の者が多くバランスはとれたと思われる。入試委員長が作成した入試毎の配置表を前年度より早い6月の教授会に提出したことは良かった。本年は志願者数により予定していた業務担当がなくなる場合もあったが、全教職員に誰が業務予定かメールし、受験者数が確定してから人別スケジュール表を早めに提出でき、不都合はなかった。 ・教員配置および事務局の配置については、適切に配置されて、混乱はなかったが、悪天候に備え、多くの教職員が必要となった。業務を複数行うなどして対応したが、余裕のない配置であった。 2) 長岡技大と連携し、大学入学共通テストに必要な要員を確保し派遣する。 ・1月14日は2人の教員が、1月15日は3人の教員が試験監督者として、また、両日とも3人の事務職員が入試担当者として長岡技術科学大学試験場で試験実施係等として業務を滞りなく行った。今年度は入試委員長の負担を考慮し、大学共通テスト要員から除外した。 3) 外部の試験問題出題者・問題の確認者の確保と依頼 ・一般選抜試験Ⅰ期、Ⅱ期で出題する4教科について出題者に依頼、その後 ・問題印刷については、入試・広報課と入試委員の代表者で行い、点検、封印して試験に備えた。英語Ⅰ期は事前に問題訂正があり、受験生一人ひとりに修正問題を渡し対応した。また、試験の最中にも問題訂正があり、異なった科目試験が行われている試験場で口頭で該当者に伝えることとなった。このため英語以外の科目を受験している学生に不利とならないように第Ⅱ期から、一人ひとりに対し訂正箇所を紙資料で渡すこととして印刷機を用意していたが、問題訂正は生じなかった。今後は問題訂正が少なくなるように事前の点検を確実に行う。 4) 入試問題内部点検基準の作成 ・問題点検については入試委員を中心に各教科2名ずつで分担して点検項目にそった点検作業を行った。点検では、①誤字・脱字の確認、②問題番号と解答番号の整合性確認、③出題文の統一性などについて確認した。明らかな問題や解答例の間違いや、指摘した結果、修正された。事務局から出題者に対し、修正が多い科目もあり、外部の問題出題者を探するのは容易ではなく、ようやく依頼していることから、出題者の負担を極力防ぎたいため配慮してほしい旨の意見があった。委員長と点検者、事務局とで検討し、最小の修正を依頼した。	A	・学生募集要項 ・各試験実施要領 ・入試委員会教員別業務担当計画表(委員長作成) ・教授会資料 ・O. C実施要領 ・長岡技大実施要領 ・作成動画 ・募集要項 事務局資料(第3回入試委員会資料、第9回入試委員会議事録) 「長岡崇徳大学学内問題点検要領」 9回入試委員会議事録	目標1: 全体として、教職員一丸となって、入学者の選抜を概ね滞りなく実施できた。しかし、点検にあたった入試委員の点検作業の受けとめに相違があったこともあり、来年度は現在の「長岡崇徳大学学内問題点検要領」に則り点検作業していきたい。	1 規定に基づき、入学者の選抜、大学入学共通テストの実施、についてとどこおりになく、実施できる	1. 規程に基づき、入学者の選抜、大学入学共通テストの実施、について滞りなく、実施できる 1) 区分に合わせた入学者の選抜を行うための日程、人員を確保 偏りが少なく配置する。 2) 長岡技大と連携し、大学入学共通テストに必要な要員を確保し、派遣する。 3) 外部の試験問題出題者・問題の確認者の確保と依頼 4) 入試問題内部点検基準の作成 5) 入試問題の印刷	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度						令和5年度			
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。						1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく			
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
入試委員会 (R5年度より広報委員会と合併)		(3)面接評価の考え方の検討 (4)調書、評定、欠席、活動や資格等の取扱い (5)特待生の基準の見直し (6)合格、不合格ラインの考え方と設定	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から採用した面接評価の方法は、面接者による大きな差がなく、かといって中間の60点に集中することなく、概ね妥当な方法だと言える。しかし、一般選抜試験の面接において面接官が2名となり、差が20点以上となる場合があった。面接官に評価の主旨や評価基準の理解を促すことが必要だ。 ・委員からこれまでの経緯や他大学の現状を踏まえたうえで検討した結果について説明があった。調書を点数化している大学は20%程度であり、調書の点数化は志願動向への影響が強く、コロナ禍となり調書の点数化を中止した大学も出現してきたとの報告があった。踏まえて検討した結果、本学は受験者数が少ないこともあり、慎重に検討すべきとの意見が多かった。今回の調査結果と他の検討項目の進捗状況を踏まえて再度検討することになった。 ・委員から資料に基づき説明があり、特待生を選考するうえで、年度末評価において2つの課題が示された。①特待生の選考は面接と筆記試験の総合計でおこなわれるため、面接点が非常に高く筆記試験の点数が低い学生が特待生となった場合、入学後のGPAが低くなる可能性があるため、特待生の選考に面接点を含めるか②特待生を5名選考しても辞退する学生が多く、優秀が学生を確保できていない年度もあった。本学の過去2年分の入試結果から面接点の高い人の総合計が高く、特待生の選考には面接結果が関係していることがわかった。特待生の選考を筆記試験のみで行う場合、アドミッションポリシーの(1)や(5)の評価が難しいことから面接は必要である。本学においては特待生制度による授業料の免除、入学後に成果を示した学生への授業料の免除(全額ではない)をすることで受験者数の獲得、入学後の学生の学習意欲を高めることができ、総合型、社会人特別選抜、指定校、公募推薦型入試においても特待生制度を採用することで学生確保につながると考えられた。そして、一般入試のみならず、入学後のGPA等から優秀者には授業料の免除(少しでも)をすることも、入学後の学生の学習意欲を高めるために必要といえる。また、入学試験時の面接は、入学後に成長が期待できる学生、高校までの学びの過程から入学後の学習への課題を判断するうえで必要と思われ今後も継続してその結果を検討していく必要がある。 ・募集要項には今年度から、「提出書類も参考に総合判定する」として、選考することを心がけており、踏まえた選考を行っている。 ・現状の課題として、本学では合格ラインを決めていない。面接評価において60点未満がつく理由の一つに高校での成績が2点代や欠席が目立つ、看護師になりたい動機付けや自らの明確な考えが示せない場合である。拡大入試委員会では面接官の教員の考えを尊重しつつ、学生の確保の視点から、その都度、合格者を選考している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回入試委員会資料 ・拡大入試委員会資料 ・実施要領 第2回入試委員会資料 ・第6回入試委員会議事録 ・添付資料 拡大入試委員会資料 				

看護学部・看護学科の目標										
令和4年度					令和5年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく					
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
入試委員会 (R5年度より広報委員会と合併)	4 入学者選抜試験内容を振り返り、次年度の学生募集計画を年度内に立案する		1) 志願状況や入試結果の分析 ・志願状況や入試結果は選抜区分ごとに表にして分析した結果、総合型選抜は志願者増を見越して募集人員を5人増やして20人としたが、志願者は18人と昨年より2名の増となり、学校推薦型選抜も募集人員35人に対し志願者18人と昨年より11人減となり定員を大きく下回った。一般選抜区分の受験者は41人昨年比11人減、大学入学共通テスト利用選抜36人昨年比28人減であった。 ・なお、総合型選抜では高校の成績の条件もなく、学力検査もしていないことから入学後の成績を追跡し、結果によっては入試方法の変更(例えば小論文も課す等)も検討する必要がある。 ・指定校推薦の推薦枠は84名人もあるが、志願者は少ない。推薦枠も見直しが必要であるが、5年間継続して指定校になっている高校は少ないため、現状維持とした。指定校推薦の成績基準をこれまでの実績から3.5に統一した。本学では推薦型選抜の学生が相対的にGPAが高い傾向にあるという分析からも妥当だと考えられる。 ・本学は入学定員に比べ試験回数が多く、教職員の負担も大きい。2024年度は総合型Ⅱ期を廃止し、総合型入試は4回から3回に減らした。 2) 入試委員会と広報委員会の統合 ・入試委員会と広報委員会は表裏一体の関係にあり、所掌事務は入試・広報課である。広報活動の活性化を図り高大接続の視点を強化し、より効率的に入試・広報業務を遂行するにあたり、両委員会の統合が検討され、各委員会毎、運営会議、教授会で統合が承認された。今後は役割分担を明確にしつつ、より効率的な運営を図っていく必要がある	B	・第12回入試委員会資料 ・令和3年度第12回入試委員会資料	目標4: 目標に対しては計画を状況を踏まえて立案できたが、志願状況や入試結果は選抜区分ごとに分析した結果、総合型以外は全ての区分で顕著な志願者の減少があり、かつ入学者の激減のためB評価とした。両選抜での志願者を増やすことが今後の課題である。 志願者が大きく減少した理由として考えられることは、県内に実績のある大学に看護学部ができたこと、長岡周辺には専門学校が存在することが考えられるが、本学が学力が低くても入学できる大学として周囲に認知されていることは進学校などからの受験に大きく影響を与えマイナス要因の可能性が考えられる。今後、魚沼地区にある北里大学保健衛生専門学院が大学となることも公表されており、益々本学の志願者確保は困難である。理由の分析を進めるとともに、学生確保の具体的な方策が必要である。2023年度から入試・広報委員会を統合したことで、課題の整理と対策が立てやすいと考えられる。	4. データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な入試・広報活動を展開し、OC参加者を増やす。	4. データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な入試・広報活動を展開し、OC参加者を増やす。 ①OCの開催(年間8回) ②動画作成 4年生動画等(5月～) ③ホームページを活用した情報発信 在学生紹介ページ等の追加(通年) ④YouTube広告の積極的活用(6月頃) ⑤SNSの利用状況の確認と積極的活用(適宜) ⑥DM、高校ラックチラシ、FAX、テレビCM、バス放送等による広告(適宜) ⑦次年度大学案内作成作業(順次写真撮影、9月構成等の検討) ⑧コンサルティング会社のデータ分析結果とコンサルティング内容を活用した広報戦略の検討(毎月)		
							5. これまでの入学実績の分析に基づいた戦略的な高校訪問活動等を実施し、総合型選抜、学校推薦型選抜による出願者を増加させる。 ①入学者実績のレベルに応じた高校訪問(5月～、年間3クール) ②大学ガイダンス(通年随時) ③高校出前授業(随時) ④指定校・公募推薦選抜入試の入学生から出身校への手紙(7月)	6. 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。 ①教育実践、研究活動、地域貢献・地域連携の活動等について、ホームページ等を通じて積極的に発信する		

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	1. 保健衛生について 1) 学生の健康管理を支援する。 2) 予防接種が確実に実施できるように支援する。	1. 保健衛生について 1)-1 4月:健康チェック用紙・行動履歴記録用紙記入の指導をする。 1)-2 4月:健康診断を実施する。5月:健康診断の結果の確認を徹底する。 1)-3 6月～8月:要精検者への受診勧奨と受診結果の確認をする。 1)-4 5月:自己管理ファイルで自己管理の指導をする。	1)-2 健康診断 4月8日(金)13:00～17:00 新潟県保健衛生センター 学内で実施、学生総数 241名、1年生1名欠席(後日自分で別施設にて健康診断を受ける)学内で4学年を一斉に行ったが、教務・学生課と連携してスムーズに実施できた。 1)-3 要精検者への受診勧奨と結果の確認 学生の健康診断結果は一覧リストを作成して把握し、要精検者の受診状況を確認した。今年度は「甲状腺肥大」D判定(要医療)が16人と多いため、学校医に相談し、学校医が甲状腺肥大C判定者(要経過観察)と不整脈B判定(心配なし)に該当する学生を再診察することになり、5月31日と6月10日の2回に分けて教員が介助に入った。診察時の学校医の不適切な対応が問題となり、学部長、学長へ経緯を報告した。 1)-4 自己健康管理 3年生は後期から随時、各実習担者による確認、1年生は6月、2年生は1月の臨地実習前に健康ファイルのファイリング内容の確認、感染症カード記入確認と健康チェック用紙・行動履歴用紙の記入の確認を全員に対して実施した。4年は健康ファイルの確認ができていなかった。	A	・学年暦 ・健康診断結果 ・議事録	1) 健康診断・自己健康管理 健康診断は学内で4学年を一斉に行ったが、教務・学生課と連携してスムーズに実施できた。学生の健康診断結果を受けて要精検者に関して、学校医が再診察することになった。診察時に教員が介助に入ったが学校医の不適切な対応が問題となり、学部長、学長へ経緯を報告した。今後、健診センターへの申し入れと学校医についての検討が課題となった。 健康ファイルの点検は1年生7月、2年生1月の実習前に全員確認できた。ファイル中の書類が不備であった学生や未記入の学生には再提出してもらい確認できた。4年生については確認できていないが、3年生は実習担当の教員による健康チェックはできている。以上のごとより、評価は「A」とした。4学年がそろい学生数が多くなった中で教員による健康ファイルの点検は限界が生じており、保健室専属の人員が必要と考える。	1. 保健衛生について 1) 学生の健康管理を支援する。 2) 予防接種が確実に実施できるように支援する。 3) 健康管理に関する啓発活動を行う。 4) 保健室利用者の対応を連携・協力して行う。	1. 保健衛生について 1)-1 4月:健康診断を円滑に実施する。 1)-2 5月:健康診断の結果を確認し、校医へ報告する。 1)-3 6月～8月:要精検者への受診勧奨と受診結果の確認および指導をする。 1)-4 5月:自己管理ファイルで自己管理の指導をする。 2)-1 B型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン、新型コロナワクチンの予定の調整と把握を行う。 2)-2 5月:予防接種に関する説明をする。 2)-3 12月:予防接種の接種状況の確認をする。	
		2)-1 B型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン、新型コロナワクチンの予定の調整と把握を行う。 2)-2 5月:予防接種に関する説明をする。 2)-3 12月:予防接種の接種状況の確認をする。	2)-1-2-3 予防接種 ワクチンの連絡はポータルサイトと掲示で実施、その他、講義室での説明と呼びかけを行った。HBワクチンは1年生に3回実施した。①6月3日、②7月58日、③12月予定が変更になり11月12日。インフルエンザワクチンは、1年生、2年生、4年生は10月27日に実施し、3年生は各自で受けた。オミクロン株対応ワクチンは11月25日および12月2日に実施した。	B		2) 予防接種 インフルエンザワクチンと新型コロナワクチン接種については学生への説明と連絡ができ、数人の欠席者はいたが教務学生課で把握できており、スムーズに実施できた。 小児感染症の抗体値が不足の学生にはワクチン接種を指導したが、新型コロナワクチンが急に予定になるなど社会情勢の影響でワクチン接種の予約が取れずに接種が遅れている学生が多いこと、接種後に未報告の学生もいたため全員の接種状況の把握が十分にできていない。そのため、評価は「B」とした。今後はポータルサイト等で一定期間ごとに未接種の学生は接種をすることおよびワクチン接種の予約がとりやすい医療機関の情報提供等のアナウンスをしていく。	3)-1 保健日より発行と掲示を行う(3回/年 他必要時)。 3)-2 感染対策の指導をする(随時)。 3)-3 学生への感染対策について他の教員への協力を求める。 4)-1 保健室担当教員と教務・学生課が連絡を密にし、連携する。 4)-2 保健室の管理(毎月の点検、年2回のリネン交換、物品補充)を行う。 4)-3 保健室の利用状況を把握する		

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	3) 健康管理に関する啓発活動を行う。	3)-1 保健だより発行と掲示を行う(3回/年:前期1回・後期2回、他必要時)。 3)-2 感染対策の指導をする(随時)。 3)-3 学生への感染対策について他の教員への協力を求める。	3)-1 保健だより 保健だよりを3回発行し、ポータルサイトと学内に掲示した。 6月:五月病の予防と健康診断、予防接種、8月:食中毒、12月:新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの対応をした。 3)-2-3 感染対策 感染対策の指導は随時実施、講義休憩時間の窓の開閉を学生へ促すように教員へも協力を求めた。	A	・保健だより 6月、8月、12月	3) 保健だより 保健だよりは年3回発行しタイムリーな情報発信ができた。そのため、評価は「A」とした。 感染対策の指導は授業等の際には窓の開閉を促していたが、学生が主体的に実施はできていなかった。食事の際には学生も感染対策を守っている様子は見られていた。また、厚生労働省や文部科学省からの感染症対策に準ずる感染対策について検討していくことが必要となる。学生へは感染対策の意義をオリエンテーション時や講義等を活用して意識を高めて自主的に行動に移すように働きかける。			
	4) 保健室管理の充実を図る	4)-1 保健室担当教員と教務・学生課が連絡を密にし、連携する。 4)-2 保健室の管理(毎月の点検、年2回のリネン交換、物品補充)を行う。 4)-3 保健室の利用状況を把握する。	4)-1 保健室担当教員と教務・学生課の連絡・連携随時実施できた。 4)-2 保健室の管理 各月の担当者が点検・実施した。年2回のリネン交換を実施した。不足の物品についてはその都度補充した。 4)-3 保健室利用状況の把握 毎月の担当が利用状況を会議で報告し、共有した。	A		4) 保健室管理 前期は保健室の利用者数が多かったが、担当教員と教務学生課で協力して対応できた。保健室の物品の補充や環境整備は堅実に行われている。そのため、評価は「A」とした。後期に領域別実習が始まってからは保健室対応教員が不在の時間が多く、現在の管理体制では学生の対応が十分にできないこともあるので保健室専属の人員確保が望まれる。			
	2. キャリア支援について	2. キャリア支援について		A	・各種アンケート結果	2. キャリア支援について 各種セミナーを実施し、実施後のアンケート結果も良好だった。就職活動に関してはキャリア支援室専属担当者の配置により、相談支援が充実し、7割の学生が利用し、面接指導、小論文指導、採用試験後のフォロー等において効果があった。キャリア支援室の整備、担当者の配置、就職情報の提供と支援活動が実施できたことから、評価は「A」とした。 今後の課題として次のことがあげられる。①実習マナー講座に関しては、将来の就職に備えて実習中から注意する意味で実施していたが、参加可能な時間帯の工夫や参加のための周知PRを行ったが、参加者が少なく、基礎実習担当者へ委ねたほうが得策と思われる。②保健師就職希望者に対する公務員試験対策に関して、学内講師では時間調整がつかず実施できなかった。次年度は外部講師とするなど検討する必要がある。③今後、学生の人数が増えるため、担当者の勤務時間の確保、文房具などの物品の確保、掲示板の設置などが必要である。			
	1) キャリア支援担当職員と連携し、学生への就職・進学に関する情報提供およびその支援を充実させる。	1)-1 キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・公務員試験対策(3月、4月) ・インターンシップガイダンス(6月) ・就職合同説明会(7月、8月) ・実習マナー講座(1月) ・小論文の書き方・エントリーシートの書き方講座など。 1)-2 就職・進学調査(3年次の8月、2月)を実施し、アドバイザーへ情報提供する。 1)-3 学生に対する広報活動を強化(ポータルサイトの活用、掲示板、対面での紹介活動)する。	1)-1-2-3 キャリア支援 ・2022年7月14日(木):就活スタートアップセミナー開催(55人中35人参加)。 ・2023年1月23日(月):就活セミナー①開催(52人中48人参加)。 ・2023年2月8日(火):就活セミナー②開催(52人中45人参加)。 ・2023年1月13日(金):実習マナー講座(2年生)に実施(72人中22人の参加)。 ・2022年7月、2023年2月に3年生の進路調査を実施し、進路調査票に関してはアドバイザーへ情報提供を行った。 ・学生への周知は、案内ポスター貼付やポータルサイトの活用を行った。 ・公務員試験対策に関して講師選定できず実施できなかった。 ・インターンシップガイダンスに関してはコロナ感染禍にあり、3年生のみ就活スタートアップセミナーの中で実施した。 ・インターンシップ参加学生がコロナ感染症陽性となり、インターンシップ届け出用紙を作成した。	A	第1回2回進路調査結果、調査票		2. キャリア支援について 1) キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・インターンシップガイダンス(6月) ・公務員試験対策(8月、3月) ・実習マナー講座(1月) ・小論文の書き方・エントリーシートの書き方講座など。 1)-2 就職・進学調査(3年次の8月、2月)を実施し、アドバイザーへ情報提供する。 1)-3 キャリア支援室での学生の個別相談、個別相談記録の作成を行い、必要時キャリア支援担当教員を介してゼミ担当と連携する。 2)-1 4年生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料を作成し、随時更新する。 2)-2 卒業生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料を作成する。		

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	2) キャリア支援室の整備を行い、個別面談ができる体制を作る。	2)-1 キャリア支援室を整備し、面談室を作り、学生の個別相談に応じることができるようにする。個別相談記録の作成を行う。 2)-2 1期生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料の作成を行う。	2)-1-2 キャリア支援室 ・4月14日よりキャリア支援室専属の職員配置となり、週3日対応可能となった。 ・個別相談が可能となり、相談記録の準備・作成を行った。 ・4年生に関しては、7割以上がキャリア支援室を利用し、個別相談・指導が行われた。 ・4年生に関しては、38名全員の採用試験状況、就職内定先リストの作成を行うことができた。	A	・採用試験報告書 ・就職内定先リスト				
	3. 継灯式について 1) 参加者の安全を考慮し、継灯式を行うことができる。	3. 継灯式について 1)-1 5月21日(土)に継灯式を行う(2期生)。 1)-2 学生全員が協力し合い、主体性をもてるよう支援する。 1)-3 課題を明確にし、次年度につなげていく。	5月21日に継灯式が遂行された。本年度も新型コロナ感染拡大のため参列者人数を制限して規模を縮小のため、学生と御祝辞をいただく来賓2名と教員と職員とで行った。練習の日程は3回確保してあった。学生からの希望もあり3回すべて練習を行った。練習は学生の係が中心になり行うことができた。継灯の儀では先輩である上級生から灯を引き継ぐという内容となった。式典後の後片付けも学生全員が協力し合い、機敏に行うことができた。保護者は参列できなかったが、撮影した動画を大学HPやDVDにして保護者にみていただくことができた。終了後のアンケートでは、全体の96.1%が「満足、やや満足」と回答していた。また、LED式キャンドル破損の補充を行い、次年度学生数が増えるため燭台の補充も行った。	B	第1回教授会資料7 ・学年暦 ・令和4年度長岡崇徳大学継灯式次第 ・令和4年継灯式スケジュール ・令和4年度継灯式学生アンケート集計結果	3. 継灯式について 全体のオリエンテーションを行い、学生の係と話し合いながら行った。しかし、学生の希望をどこまで取り入れられるのかが曖昧で当初混乱が生じたが、大学の式典として遂行できるように、計画、運営、学生との調整など、委員長と相談し進めることができた。式典は新型コロナ感染拡大の影響を受けて、昨年度同様、参列者人数を制限して規模を縮小して行った。撮影した動画を大学HPにアップしたことやDVDにして学生に配布したことで、保護者にもみていただけた。終了後のアンケートでは、「満足、やや満足」と回答した学生が、昨年度に比べ、3.9ポイント高く、96.1%であった。また、今まで2回の式典の振り返りから、基盤となるスケジュールを作成し、3期生の準備をすすめている。しかし、年度当初継灯式に関しての学生の希望と大学側の考え方の擦り合わせに混乱が生じたことから、評価は「B」とした。継灯式は、学生が専門職にすすむ上での決意表明の式典であるが、大学の式典である。そのため、学生が中心となって検討する項目について明確にすることが必要である。次年度は学生も20名余増え、会場や備品など算との兼ね合いも関連するため、係や委員長との綿密な検討が今後必要となる。	3. 継灯式について 1) 学生の継灯式係と協力して継灯式を執り行うことができる。 2) 今年度初めてとなる保護者参列、増加する来賓の対応を滞りなく行う。	3. 継灯式について 1)-1 昨年作成した「継灯式年間の流れ」を参考に進める。 1)-2 学生が主体性をもって取り組めるよう、学生の役割を明確に提示する。 1)-3 5/20(土)に3期生の継灯式を実施する。 1)-4 終了後に学生アンケートを実施する。 2)-1 学生委員会以外の教員の協力を得て実施できるように役割を調整する。	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
3. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	4. 学友会について 1) 学友会活動を支援する。	4. 学友会について 1)-1 徳樹祭、サークル活動などの学友会活動を側面から支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 4月22日に新入生歓迎会を実施した。 4月に学友会役員選挙を実施した。 5月11日に学生総会を実施した。 8月19日コロナの関係および学生の意向により、予定していた徳樹祭は中止となった。経過については以下の通りである。 4月に徳樹祭の係が選出された。 5月に徳樹祭の係に企画案を依頼。 徳樹祭の内容は縁日、屋台、レクリエーション、コンサート、ビデオメッセージに決定する。 7月下旬徳樹祭ポスターが完成し学内に掲示する。 8月17日感染委員会で感染対策を徹底したうえで徳樹祭を開催してもよいとの判断が下される。 8月19日徳樹祭の係に最終的な意思確認をしたところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み今年度の徳樹祭を中止にしたい意向であった。そのため、学生の意向をくみ取り中止とした。 サークルについては、2サークルの新設、7サークルの継続を承認した。 球技大会は日程の関係で中止となった。 11月に学友会で企画案を作成。1月20日実施予定となった。 その後1月20日は2年生の科目修了試験が近いため1年生を中心に開催したいと学友会から申し出あり。1年生に意思確認をしたところ参加者が少ないため中止にしたいとの意向であった。そのため、学生の意向をくみ取り中止とした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度学友会役員名簿 学友会役員名簿 学友会決算・予算 徳樹祭ポスター・タイムテーブル サークル一覧 令和4年長岡崇徳大 学球技大会企画書 	4. 学友会について 学友会選挙、総会等の運営・議事進行および徳樹祭、新入生歓迎会などの企画・運営について、事前に打ち合わせを行い、学生が主体的にかつ適切に活動できるように支援をしていった。その中でも新型コロナウイルスの影響や準備時間が少なく、中止となった行事があった。例えば、徳樹祭については新型コロナウイルスの影響もあるが、総会後の役員改選から徳樹祭開催までの期間が短く十分に準備できなかった。しかし、学友会活動に対し、学生が主体的に行動できるように担当教員が側面から支援していった。そのため、評価は「B」とした。今後はさらに係同士の連携と学友会役員との連携および情報共有を密にして支援を継続していく。	4. 学友会について 1) 学友会活動を支援する。	4. 学友会について 1)-1 徳樹祭、サークル活動、球技大会などの学友会活動の企画・運営がスムーズに実施できるように側面から支援する	
	5. 保護者会について 1) 保護者会を円滑に行う(昨年度より満足度を上げる)。	5. 保護者会について 1)-1 10月8日(土)に保護者会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 1)-1 保護者会の実施(10月8日(土)) 昨年度の課題をもとに学年別説明会を入れ込んだ役割やスケジュールを作成し、10月8日(土)に保護者会を行った。出席数は68名(1年生32名,2年生13名,3年生18名,4年生5名)であった。個別面談は18名(1年生9名,2年生3名,3年生4名,4年生2名)であった。保護者へのアンケートでは「満足した:69.5%」「やや満足した:25.4%」の合計は94.9%(昨年度93.8%)であった(N=59)。アンケートの自由記載では、「大学で保護者会があるのはありがたい。」「入学式は参加できなかったが、学生たちが頑張っている姿が伝わってきたので、参加して良かった。」等の意見があった。 また、アンケートに保護者からの感染対策に関する質問があり、その回答を学生ポータルサイトに掲載し学生から保護者に伝えてもらうこととした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度 長岡崇徳大 学保護者会実施計画 2022年度保護者会アンケートまとめ 2022年度保護者会参加者数 	5. 保護者会について 今年度最高学年までが揃う初めての開催となり、新型コロナウイルス感染予防対策をして滞りなく開催できたこと、保護者会アンケートの満足度が94.9%で、昨年度の満足度93.8%より高かったことから評価は「A」とした。アンケート結果では上記実績にある様に概ね肯定的な意見だったが、施設見学の時間が想定以上にかかったことが影響し、個別面談の時間が遅くなった場面があった。次年度に向けては施設見学のコースや時間設定を担当者と共有することで、よりスムーズな実施となるようにしていく必要がある。	5. 保護者会を円滑に行う(昨年度と同等の満足度を維持する)。	5. 保護者会について 1)-1 10月21日(土)に保護者会を実施する。	

看護学部・看護学科の目標

令和4年度

令和5年度

1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	6. 令和4年度新入生イベントについて 1) 新入生同士の交流を図り、お互いを知ることにより学生生活をスタートできる。	6. 新入生イベントについて 1)-1 入学後早期に新入生イベントを実施する。	1)-1 新入生イベントの実施 2022年4月8日(金)1・2限(8:50~12:00)に、計画に基づき新入生イベントを実施した。目的は、新入生同士の親睦を深める。その目的達成に向けて企画・運営した。 ①1グループ5~6名編成。自己紹介・スタンプラリー、最後にグループワークとして「大学に入学してどのように過ごしたいか」をテーマに話し合い、1グループ3分間で全体に向けて発表した。 ②スタンプラリーもスムーズに行われ、グループワークでは、メンバー間での話し合いの内容が発表された。	A	・2022年度新入生イベント計画 ・2022年度新入生イベントに関するアンケート結果	6. 新入生イベントについて アンケートの結果から、自己紹介では「できた・まあまあできた」が98.7%、スタンプラリーでは「廻れた・大体廻れた」が93.2%。また、楽しめたかの質問では、「楽しめた・まあまあ楽しめた」が100%であった。グループワークでは、「参加することができた・まあまあできた」が98.7%であった。以上より、学生の評価が高く目的は達成できたと判断し、評価は「A」とした。今後の課題として、スタンプラリーでは、グループによっては指定箇所が廻れてない、担当者が担当箇所待機されてなく待ち時間があつたことなどがあげられる。	6. 新入生イベントについて 1) 新入生同士の交流を図り、お互いを知ることにより学生生活をスタートできる。	6. 新入生イベントについて 1)-1 入学後早期に新入生イベントを実施する
	7. 学生生活(満足度調査・他)について 1) 学生生活の現状および課題を明確にするとともに新たな課題に対応する。	7. 学生生活(学生交流会・満足度調査)について 1)-1 学生生活満足度調査を実施する。 ・昨年度までの学生生活満足度調査結果と調査項目を検討し、精選した調査票を作成する。 ・満足度調査を1回/年(9月予定)実施する。 ・集計・分析を効率的に行うため、WEBでのアンケート方法を導入する。 ・学生生活の現状および課題を明確にする。 1)-2 新たな課題に対し、適宜対応する。	1)-1 学生満足度・学生生活実態調査を実施 前年度と容易に比較ができるよう、2020年度作成の調査項目を使用し、全学年を対象に9月に学生生活満足度調査を実施した。回収率は全体の88.6%であった。 アンケート集計から80%に満たない項目として次に記載する。「本学に入学した満足度」、「支援体制に対する満足度・学習に対する支援体制」、「就職・キャリア支援に関する支援体制」、「課外活動(部活・サークル・学園祭など)の支援体制」、「ネット環境の整備に関する支援体制」、「売店・自動販売機」、「学生食堂」であった。 1)-2 新たな課題に対し、適宜対応する。 学生満足度・学生生活実態調査 自由記載欄から記載された学生からの改善・要望については、該当する部署に伝え回答を得た。その回答については、学生ポータルサイトを通じて学生に報告した。	A	・学生満足度調査 アンケート調査内容 ・学生満足度調査 アンケート調査結果	7. 学生生活(満足度調査・他)について 調査の実施により、学生の実態や満足度について把握することができた。学生からの改善・要望事項を各部署につたえ、その回答を学生に報告することができたため評価は「A」とした。3年生の回収率が低かった。要因として、実習期間中のため配布・回収が円滑に行われなかったことがあげられる。	7. 学生生活(満足度調査・他)について 1) 学生生活の現状および課題を明確にして適宜対応し、学生生活をサポートする。	7. 学生生活(満足度調査・他)について 1)-1 学生生活満足度調査を実施する。 ・昨年度までの学生生活満足度調査結果と調査項目を検討し、精選した調査票を作成する。 ・満足度調査を1回/年(9月予定)実施する。 ・集計・分析を効率的に行うため、WEBでのアンケート方法を検討する。 ・学生生活の現状および課題を明確にする。 1)-2 新たな課題に対し、適宜対応する。

看護学部・看護学科の目標

令和4年度

令和5年度

1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	8. 冬期交通安全講習会について 1) 学生が冬期の通学を安全に行えるように支援する。	8. 冬期交通安全講習会について 1)-1 学生と共同し、降雪前に冬季交通安全講習会を実施する。 1)-2 昨年度より受講者数が増加するよう教務学生課と早めの日程調整をし、学生に積極的な参加を促す。 1)-3 交通安全の注意喚起を促すために、学生の目に留まるような内容と掲示場所を工夫してポスターを掲示する。	1)-1 冬季交通安全講習会の実施 8月末より日程調整を行い、降雪前の10月24日(月)14:30～15:30に主に雪道の運転が初めての1年生を対象に開催することができた。 講習会終了後にアンケートを実施し、結果の集計から内容を評価した。実施報告として、アンケート結果の一部と講習会の様子を大学のホームページに掲載した。後日雪道にはまった時の対応について質問があったため、対応方法を調べ、掲示板を介して返答した。 1)-2 講習会の参加 後期オリエンテーションの学生委員会枠で委員長よりアナウンスし、担当教員の授業後にも参加の必要性を説明した。当日は2,3,4年生が実習や授業等で参加できない状況であったが、1年生64名と教員7名(担当者4名)が出席することができた。 1)-3 交通安全への注意喚起 学生の目に留まるような内容を意識したポスターを作成した。具体的には、雪道で転倒している人のイラストや、昨年の本学での交通事故件数を明記し、他人ごとではないことを強調した。 また、学生の目に留まるように、拡大コピーしたポスターを学内掲示板に数か所掲示し、ポータルサイトでも注意喚起と講習会参加を促した。	A	・作成ポスター ・ホームページ掲載文および掲載写真 ・講習会后アンケート結果	8. 冬期交通安全講習会について アンケートの開催日の評価は79%が適当と答えている。タイヤ交換について考え始める時期であり何に注意したらよいか何を準備したらよいか参考になったという意見から、時期的に適切だったと言える。また、遅い時間帯の開催ではなかったことも学生参加が促進された要因と考えられる。内容の評価では、98%が交通安全について参考になったと答えた。夜間の運転・雪道でのブレーキング・車間距離など参加者に多くの注意喚起がなされた。実際に、今年度の交通事故は2件(10月1件・1月1件)であり、昨年より減少している。以上のことから、今年度計画した、降雪前の開催、受講者の増加、交通安全の注意喚起、すべて達成できた。そのため、評価は「A」とした。 アンケートには、口頭説明だけでなくスライドや動画なども準備してほしかった、質疑応答を含めて時間内に終了してほしいという意見があり、改善点も見えた。これらは次年度の課題とする。	8. 冬期交通安全講習会について 1)-1 冬季交通安全講習会を実施する(10～11月)。 1) 学生が冬期の通学を安全に行えるように講習会を通して啓発する	8. 冬期交通安全講習会について 1)-1 冬季交通安全講習会を実施する(10～11月)。 1)-2 講習会の参加への促しをする。 1)-3 交通安全への注意喚起をする。
	9. 投書について 1)-1 学生からの投書に対し、適宜対応する。	9. 投書について 1)-1 学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する。	1)-1 学生からの投書 学生からの投書は16件あり、内訳は次のとおりである。投書箱(ポータルサイト)14件(公開:6件、非公開:8件)、意見箱2件(1件は学籍番号と氏名が無記名)。投書箱に投稿された「公開」の5件と意見箱に投稿された学籍番号と氏名が記載のあった投稿1件については回答し、3カ月間掲示をした。回答にあたり、学生委員会開催まで長い期間がある投稿については、メール会議開き、その都度対応した。投書箱に「非公開」で投稿された投書については、回答および掲示はしていないが、投書の内容によっては対応した。	A	・意見等に対する回答(7件)	9. 投書について 投書箱に投稿された「公開」の5件と意見箱に投稿された学籍番号と氏名が記載のあった投稿については迅速に対応した。投書箱に「非公開」で投稿された投書についても、投書の内容によっては対応したため、評価は「A」とした。今後も適宜対応をしていきたい。	9. 投書について 1) 学生からの投書に対し、適宜対応する	9. 投書について 1)-1 学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する

看護学部・看護学科の目標										
令和4年度					令和5年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく					
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。										
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。										
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
広報委員会 (R5年度より入試委員会と合併)	1. データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な広報活動を展開し、OC参加者を増やす。	1)について ①OCの開催(年間7回) ②動画作成 4年生動画等(5月～) ③ホームページを活用した情報発信 在学生紹介ページ等の追加(通年) ④YouTube広告の積極的活用(6月頃) ⑤SNSの利用状況の確認と積極的活用(適宜) ⑥DM、高校ラックチラシ、FAX、テレビCM、バス放送等による広告(適宜)	2022年5月～2023年3月までの期間に計7回実施し、延189名(保護者除く)が参加した。当初は7回の計画であったが、志願状況を鑑み、12月に大学説明会(ミニOC)、1月にイブニング大学説明会を追加開催した。アンケートの結果から参加者の満足度は高く、看護体験、在学生による入試体験談等は参加者から好評であった。また、学生スタッフが受け付けやキャンパスツアーを担うようになり、看護体験、崇徳カフェ、入試体験談などの企画と合わせ、学生スタッフが主体的にOCの運営に参加できるようになった。 新規作成動画として、4年生のインタビュー(2本)とオープンキャンパスレポート動画を作成し、ホームページにアップした。4年生インタビュー動画は704回、オープンキャンパスレポート動画は459回の再生回数であった。 8領域の教員メッセージをリレー形式で順次掲載し、本学の各領域の特長を紹介した。また、在学生の「大学生活」「合格体験」インタビューを作成し、在校生による大学紹介ページを充実させた。 YouTube広告では24歳までの若年層をターゲットとし、毎月3万回以上の表示があり、本学の認知訴求につながった。また、リスティング広告では時期に合わせて入試告知やOC告知などを実施し、資料請求及びOC申込につながった。 主にOC告知、OC終了後の情報発信、入試告知のため、Twitter及びLINEを活用した。コンサルティング会社からの助言を受け、TwitterではOC関連、入試関連、地域連携、高大連携など、大学の様子を紹介する投稿を計75回行い、中には表示回数4500回を超える投稿もあった。LINEは主にOC告知・入試告知ツールとして使用し、計20回投稿した。その他、LINEのチャット機能を使用した個別相談も行い、約61件の問い合わせに対応した。 従来の広告を継続するとともに、次年度からの高校生の利用が多い白山駅及び新潟駅構内のデジタルサイネージ広告を新規契約した。	B	・OCアンケート結果 ・動画データ ・ホームページ ・コンサルティング会社報告資料 ・コンサルティング会社報告資料 ・広告成果物	・目標1について 新規動画の作成、領域リレーメッセージ、「在学生の大学生活」「合格体験」のインタビュー等、ホームページの内容を充実させることができた。また、コンサルティング会社からのデータ分析結果をYouTube広告やSNSの活用、DM等に活用しながらOC参加を告知したことにより、今年度のOCは前年度の9回から7回と実施回数は減らしたが、延参加者は171人から189人へと増加させることができた。今後はOC参加者を更に増やすとともに、OC参加から志願(受験)へのコンバージョン率を上げていくための戦略が課題とされるが、広報委員会としては、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた広報媒体(SNS、ホームページ、新聞、TVCM等)を検討し、より効果的な広報活動を行っていくことが課題である。				

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学術委員会	1. 長岡崇徳大学紀要第3号を刊行し、前年度以上の本数の論文を掲載するとともに、機関リポジトリへの登録を行う。	1-①11月末を原稿締め切りとし、適宜原稿募集の呼びかけを行う(通年) 1-②査読者の選定と依頼を行い、査読結果の内容を参考に、修正原稿をもとに掲載可否を検討する(～2月) 1-③編集作業を行い、紀要第3号を刊行する(3月) 1-④機関リポジトリへの登録手続きを進め、年度内に登録を完了する(3月)	1について 紀要発行の作業を計画通りに進め、2023年3月に「長岡崇徳大学紀要第3号」刊行した。また、機関リポジトリの登録を完了させ、2022年11月に「長岡崇徳大学機関リポジトリ」を公開し、これまで刊行した紀要の論文を掲載した。	A	長岡崇徳大学紀要2号	1について 長岡崇徳大学紀要第3号に10編の投稿があり、うち9編を採択し掲載した。昨年の第2号の2編から大幅に増加した点は評価に値する。一方で、研究論文は研究報告の1編にとどまり、その他の8編は教育・委員会活動等の報告であった。紀要が研究活動の成果発表の場として活用されるように、研究論文の投稿を推進していくことが課題である。また、これまで発刊した紀要を長岡崇徳大学リポジトリで公開することができた。今後はリポジトリの具体的な運用について、図書委員会と協議を進めていくことが課題である。	1. 長岡崇徳大学紀要第4号を刊行し、前年度以上の本数の論文を掲載するとともに機関リポジトリへの登録を行う。	1-①10月末を原稿締め切りとし適宜原稿募集の呼びかけを行う。 1-②査読者の選定と依頼を行い、査読結果の内容を参考に、修正原稿をもとに掲載可否を検討する(～1月) 1-③編集作業を行い、紀要第4号を刊行する(3月) 1-④機関リポジトリへの登録手続きを進め年度内に登録を完了する(3月)	
	2. 研究における不正防止推進部署として各種規程等を作成するとともに、e-ラーニングによる教職員のコンプライアンス教育の体制を構築する。	2-①研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講を喚起し、受講修了を確認する(5月～9月) 2-②APRIN(公正研究推進協会)の契約手続きを進め、eラーニング教材の活用、研修セミナーの参加等に関して情報発信を行う 2-③不正防止に関するガイドライン、規程等を作成し、教職員のコンプライアンス教育の体制を構築する(通年)	2について 研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講を喚起し、年度内に教員全員が受講を完了した。また、APRIN(公正研究推進協会)の契約手続きを完了し、学術委員内でeラーニング教材を試用し、今後の研究不正防止活動における教材の活用方法に関して検討を行った。さらに、学術委員会事務局である財務課を中心に、不正防止に関する体制・諸規程等を整備した。	B	eラーニングコース(eI CoRE)の受講修了証 研究不正防止に関する規程文書等	2について 研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講は、計画通り年度内に教員全員が受講を完了することができた。研究不正防止、コンプライアンス教育に関して、職員も含めて体系的・継続的な教育が行えるように、APRIN(構成研究推進協会)のeラーニング教材の具体的な活用を検討していくことが課題である。また、紀要の投稿規程には二重投稿、オーサiershipなど研究不正防止に関連する規程が明確に記載されていなかったことから、今後はこれら紀要に関する諸規程について、研究不正防止の観点での見直しが必要である。	2. 研究における不正防止推進部署として各種作成した規程等の学内周知および、e-ラーニングによる教職員のコンプライアンス教育の体制を構築する。	2-①研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講を喚起し、受講修了を確認する(5月～8月末) 2-②APRIN(構成研究推進協会)の契約手続きを進め、eラーニング教材の活用、研修セミナーの参加等に関して情報発信を行う 2-③不正防止に関して作成したガイドライン、規程等を周知し、教職員のコンプライアンス教育の体制を構築する(通年)	
	3. RETOPの活用を通じた研究計画の立案や外部資金の獲得を支援するとともに、学内における研究環境を整備し、研究活動を推進する。	3-①RETOPの活用に関する情報を発信する(通年) 3-②科研費等の外部資金獲得の支援方法(RETOPによる申請書添削指導、セミナー等の活用)を発信する(通年) 3-③研究費公募に関する情報をタイムリーに発信する(通年) 3-④研究分析ソフト(SPSSとNvivo)の学内利用環境を整える	3について 「新潟大学研究支援トータルパッケージ事業(RETOP)」を継続契約し、科研費を中心とした外部資金獲得の申請サポート、研究活動を推進するオンデマンドによるセミナー受講等を促した。RETOPの支援(申請書添削指導、サクッとセミナー等)を活用しながら、本年度は科研費基盤研究Cに6件の申請があったが、結果としてはすべて不採択であった(令和3年度は基盤研究Cに5件申請、うち1件が採択)。また、ノートパソコンを1台追加し、統計分析ソフト(SPSS)と質的データ分析ソフト(NVivo)をそれぞれ別のPCにインストールして貸し出しできるように対応した。	B	・RETOP契約書類 ・申請書添削指導結果 ・科研費申請書	3について 科研費については、前年度の申請件数を上回ることができた。しかし、採択件数は0件であり、RETOPの研究支援についても一部の教員は利用しているが、まだその支援内容を活かしかけていない面がある。RETOPの啓発機会を頻回にもち、科研費をはじめとした外部資金獲得のサポートを推進していくとともに、FD委員会、研究倫理委員会等と協働して、研究活動におけるトータル的な支援体制を構築していくことが課題である。	3. RETOPの活用を通じた研究計画の立案や外部資金の獲得を支援するとともに、学内における研究環境を整備し、研究活動を推進する。	3-①RETOPの活用に関する情報を発信する(通年) 3-②科研費等の外部資金獲得の支援方法(RETOPによる申請書添削指導、セミナー等の活用)を発信する(通年) 3-③研究費公募に関する情報をタイムリーに発信する(通年) 3-④研究分析ソフト(SPSSとNvivo)の学内利用環境を整える	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
FD委員会	1 より質の高い教育活動を推進し教育力の向上を図る。	1-1 シミュレーション教育研修会 福岡女学院看護大学 藤野ユリ子先生 1-2 授業評価に関する研修会 新潟大学 齋藤有吾先生 1-3 授業評価アンケートの実施	文科省の医療人材養成事業の補助金の交付を受けたことから、VR教材によるシミュレーションシナリオで授業を行うことが企画され、学内DX推進会議とFD委員会の合同企画でFD研修を行った。福岡女学院看護大学の藤野ユリ子氏に依頼し、「VR教材を導入した演習・実習のシナリオ設計」のテーマで講演をZoomで行った。(6/3)アンケートからは、シナリオ設計が重要でVRはあくまでも一つの教材として考える、VR教材の利点や活用の仕方がわかったが、VR教材の操作や使えるまでの教員側の技術不足について心配する意見があった。参加率は93.5%。 前年度に引き続き新潟大学の齋藤有吾氏に依頼し「ループリックの作成と評価方法」をテーマにZoomによる講演会を行った。(8/22)基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱと小児看護援助論Ⅱについて、学内教員が作成したループリック評価表を検討したことによって具体的な理解が深まった。アンケートからは頭の中の評価基準を可視化した表であることが納得できた、複数の教員が関わる場合でも統一した評価ができる、教員間で判断の差をなくし学生がどのように評価されたかが分かる点がメリットである、などの意見があった。参加率は93.5%。 回答率が上がるように前年度から工夫してきた。前期・後期のオリエンテーションでアンケートの目的を説明し、回答するように促した。また教員用に「授業評価アンケート実施マニュアル」を配布し教員への意識化を図った。Webでのアンケート(講義用)の質問項目について学生が答えやすいように項目や表現を修正した。 Webでのアンケート(講義用)回答率は58科目中90~100%が10科目、70~80%が12科目で前年度より上がったが、残りの科目は0~50%ではつきがみられた。用紙で回答する演習や実習科目はその場で回収するので、90%台の回答率であった。	A A B	FD委員会会議録 講演会アンケート結果 講演会アンケート結果 教員用授業評価アンケート実施マニュアル「2022年度 授業評価アンケートの実施について」 Webでのアンケート(講義用)修正用紙	1-1について 学内DX推進会議とFD委員会の合同企画で「VR教材を導入した演習・実習のシナリオ設計」の講演会により、VR教材の利点や活用の仕方が分かったが、VR操作の技術不足などの課題が明らかになった。この問題をクリアし3つの領域でVRを導入した授業を行っている。これは、3年にわたるシミュレーション教育研修の積み重ねがあったことでスムーズに実施できたと考える。今回の講演会は各領域のシミュレーション教育をさらに推進できたことから評価できると考える。今後は各領域でシミュレーション教育の何をどのように行ったか報告会をもち、評価して授業改善につなげること、シナリオの共有化・共同利用が図れるよう検討する研修会をもつことが課題である。 1-2について 授業評価に関する講演会のFD研修により、実際に実習や演習のループリック評価を作成し評価を試みている領域があった。2年にわたる授業評価のFD研修が活かされた結果であると評価できる。今後は領域の授業評価に取り入れた結果を報告会や情報交換会をもって検討し、より良い授業評価ができるようにしていくことが課題である。 ※1-1および1-2については、本学のデプロマポリシーと各科目の関連を検討し、現在実践している教育の評価を可視化させカリキュラムマップと照合した上で、本学の教育のねらいに合致しているか確認する必要がある。 1-3について 新年度の前期・後期のオリエンテーションで学生に授業評価アンケートの目的を説明し回答を促す。教員にも授業評価アンケート実施マニュアルを配布し、引き続き授業評価アンケートの回答率が上がるように工夫する必要がある。	1 授業評価を推進し、教育力の向上を図る。 2 教職員が協働し、組織全体で学生の育成を図る。 3 研究活動の推進と研究力の強化を図る	1-1 ・実践報告から研究報告へ」板山稔教授 ・授業評価に関する研修会 「ループリックの作成と実施評価」新潟大学 齋藤有吾先生 1-2 授業評価アンケートの実施 1-3 公開授業見学の実施とピアレビュー評価の実施 2-1 SD研修「大学マネジメントにおける教職協働講演会「災害の怖さを正しく知る」NHKアナウンサー 防災士 狩野史長氏 2-2 SD研修「教育の質向上をさせる職員の職能開発」ワークショップ(仮) 3-1 研究報告会	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
FD委員会		1-4 授業のピアレビュー評価	完成年次を迎え全学年の科目が開講されたため、学内教員の担当科目が増え、前期後期ともに授業準備や実習の準備に追われて授業見学ができなかった教員が多かった。公開授業の期間を延長して見学できる機会を多くとる工夫をしたが、時間的な余裕がなくピアレビューができた授業は少なかった。 (授業見学者数 前期:12名 後期:0) 後期の公開授業見学者が0だった理由は、ほとんどの教員が、実習指導をしながら自分の担当科目の授業をするために大学に戻るという過密なスケジュールが続いており、公開授業見学をする時間はとれない結果となった。実習指導教員不足があり人員構成や教育環境が整っていないという問題がある。	B		1-4について 授業のピアレビュー評価がより質の高い教育の推進につながることを教員が再認識し、公開授業の見学、ピアレビューを行っていくよう働きかける必要がある。後期の公開授業見学には参加できる教員が0ということは実習指導教員の不足、各領域の人員構成や教育環境が整っていないことが1つの原因になっていると考えられる。これらについては大学として大きな課題であり、教員の人員を確保して、公開授業に参加できるようにすることが課題である。			
		1-5 授業改善に向けた授業評価アンケート及びピアレビュー評価の活用について検討する。	検討の必要性は認識していたが、実際には検討する時間的余裕がなかった。	C		1-5について 教員が各領域の実習指導に出ているため検討する時間的余裕がなかった。各領域の人員構成や教育環境を整え検討する時間的余裕を確保することが課題である。授業改善に向けた授業評価アンケート及びピアレビュー評価の活用について検討しなければならないので、各教員がどうフィードバックして授業改善に取り組んだか話し合う機会が必要である。			
	2 教員の研究活動を推進し研究力を高める。	2 研究方法に関する研修および研究報告	研究方法に関する研修会は実施しなかった。学内教員からの研究報告を6月と7月に行った。若手の教員からの報告に対し活発な質疑応答がされ、新たな知見を知る機会となった。	B		2について 学内教員の研究報告は発表する教員、聞く教員双方にとり研究に関する新たな知見を得るよい機会となっている。 引き続き継続し切磋琢磨して研究活動の推進に向かうようにする。			
	3 各領域のシミュレーション教育を推進する。	3-1 FD委員会活動に関する教員のアンケートを行い今年度の活動を評価する。	シミュレーション教育研修会、授業評価に関する研修会終了後に実施したアンケートが、FD活動のアンケートの主要な結果になるのではという意見が多くあったことから今年度FD活動へのアンケートは実施しなかった。今後アンケート内容を変更するよう検討する。	C	FD委員会活動に関するアンケート結果	3について FD活動についてのアンケートはFD研修会(シミュレーション教育、授業評価の講演会)のアンケートと重複することが多く、回答率が低かった。FD活動についてアンケート内容を変更する必要がある。			
	(追加)	4 SD研修会についての情報収集	どのようなSD研修が必要か意見聴取と他大学で行われているSD研修の情報収集を行った。	C		4 SD研修会 他大学のSD研修の情報を活かし、本学のSDとしてどのようなニーズがあり、何が必要か、教職員に共通する意義のある研修会を企画することが課題である。			

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
3. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
研究倫理委員会	3. 本大学倫理審査委員会への申請時の提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。	3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 1年に11回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。	1) 利益相反に関して研究倫理委員会規定の変更 2021年から事務局と検討し作成してきた利益相反に関連する研究倫理委員会規定、利益相反マネジメントポリシー、研究に関する利益相反自己申告書を再度検討した。研究倫理委員会規定の改正には「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年)、「看護職の倫理綱領」(令和3年)の下線部分を修正した。利益相反マネジメントポリシーは定義、運用について説明を追加した。研究に関する利益相反自己申告書は、「資金調達先の名称」および「資金調達先と研究者等との関係」等について記載できるようにした。これら規程等については、2022年6月9日の教授会で審議され承認された。関連して、研究倫理申請に関する申請用紙、研究倫理委員会への申請手続きの内容について、利益相反に関する、提出用紙の追加、文言の修正と追加を行った。 2) 「匿名化」の文言使用 研究倫理審査申請用紙：研究計画書(様式2)書面内「匿名化」の文言使用については、厚生労働省・文部科学省等からの事務連絡(令和4年3月10日、6月6日通達：資料参照)「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイドランスの一部改正について」の中で、用語の定義の見直しとして「匿名化の用語を用いないこと」と明記されている。本大学の研究倫理審査申請書類、様式2「研究計画書」の6-3、6-4で匿名化の文言が用いられており、代案を検討した。他大学でも仮名加工情報として処理していると情報提供があるので書類内容の確認と変更を行った。また、関連して研究倫理審査申請用紙の内容項目を確認し追記・修正した。	A	委員会議事録	2021年から引き続き、事務局と研究倫理委員会規定、利益相反マネジメントポリシー、研究に関する利益相反自己申告書を再度検討し、2022年6月9日の教授会で審議され承認された。関連して、研究倫理申請に関する申請用紙、研究倫理委員会への申請手続きの内容について、利益相反に関する、提出用紙の追加、文言の修正と追加を行った。研究計画書(様式2)書面内「匿名化」の文言使用については代案を検討した。他大学でも仮名加工情報として処理していると情報提供があるので書類内容の確認と変更を行った。また、関連して研究倫理審査申請用紙の内容項目を確認し追記・修正した。 (課題)「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年)、「看護職の倫理綱領」(令和3年)の理解を深め、本学の倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を引き続き行う。	3. 本大学倫理審査委員会への申請時の提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。	3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 1年に11回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。	
	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて準備する。	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備をする。 2021年に引き続き本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の他大学の関係する資料を収集し、作成に着手する。	令和2年度より継続提案事項として、本大学の「研究倫理綱領」と「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備が挙げられていた。この項目は今年度の研修会のテーマの「看護研究計画書作成における倫理的配慮」とも関係している。今年度は、神戸市看護大学と兵庫県立大学の研究倫理綱領、研究倫理指針、倫理審査要綱、倫理審査申請等手順等を参考に検討した。本学の「研究倫理委員会への申請手続き」には、前述の2大学の研究倫理綱領、研究倫理指針等の内容と倫理審査申請の手続きの内容が一緒になっていることを確認した。本学でも看護学の教育研究機関として人々の健康と福祉の向上に寄与するために研究活動に携わる者としての法令を遵守するという研究者としての基本的責務、研究倫理綱領、研究倫理指針と倫理審査申請手続き手順の内容を分けて整理することが必要との結論となった。今年度の検討結果を踏まえ、次年度は「研究倫理綱領」および「教員の研究活動の倫理的指針」を作成にむけて進めていく。	B	委員会議事録	今年度は本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成準備に他大学の文献収集等に着手し、ワーキンググループを中心に検討したが全体での検討が十分でなかった。 (課題)令和5年度は今年度の活動結果を踏まえ、作成にむけて計画的に検討を行う。	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成の準備をする。	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備をする。 2023年は、2022年に引き続き本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の他大学の関係する資料を収集し、作成に着手する。	
	5. 本大学学生に向けた研究倫理の啓発を行う。	5. 学生向けの研究倫理の啓発を実施する。					5. 本大学学生に向けた研究倫理の啓発を行う。	5. 学生向けの研究倫理の啓発を実施する。 1) 学生向けの研究倫理に関するパンフレットを作成する。 2) 作成したパンフレットに基づきの研究倫理に関する説明を行う。	

看護学部・看護学科の目標										
令和4年度					令和5年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく					
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。										
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。										
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
地域連携・貢献委員会	2. 災害時に対応できる体制整備を図る。	4. 大学独自の防災指針の策定	ワーキンググループで2回検討した。法人規模で活動していることから、個々の防災対策には限度があり、法人規模の指針の必要性が確認され、法人に事務局長から働きかけていくことに帰結した。	A	議事録	事務局とワーキングチームを組んで防災指針の策定に取り組み、個々ではなく法人規模で作成していく必要性があり、事務局から法人に働きかけることが確認されたことから、方向が見えてきたことで評価はAとした。	3. ボランティア連合会、地域社会と連携し、学生のボランティア活動の推進を図る。	2. 学生の主体的なボランティア活動の支援・推進 1) ボランティアサークルと連携した活動の推進 2) ボランティア連合会と連携した活動の推進 3) 地域のボランティア募集機関との連携と学生参加の推進 4) 本学独自の学生のボランティア活動の推進と実践 5) 必要な手続きの推進(学生の学びの深化と活動把握のため)		
		5. 災害時の必要物品の調達(飲料水)	水と乾パンの保管場所の確保のため時間を要していたが、1月に倉庫の改修が終了するため、そこに置くこととなった。ヘルメットや毛布については、今後継続審議となった。	A	災害ワーキング議事録	災害時の水の保管が完了した。事務職と教員のワーキングチームを設置し、係の教員の根気強い働きかけが大きいと判断された。				
	3. ボランティア連合会、地域社会と連携し、学生のボランティア活動の推進を図る	6. ボランティア連合会と連携し近隣でのボランティア活動の推進	長岡市から公共施設用に寄贈された花苗の植花を、ボランティア連合会と共同で6月に4名、10月に6名の学生が参加した。	A	議事録	6月、10月に実施した花植えなどを通して、ボランティア連合会との連携はよくできていた。				
		7. 地域のボランティア募集機関との連携、及び学生参加の推進	・災害復興支援で、ボランティアサークルの3名が村上市で活動した。 ・震災コミュニティセンターが主催の「震災カレブプロジェクト」に5名の学生が参加した。 ・地域でボランティアをする場合、教務学生課に報告する必要があるが、それをしないで実施しているケースがあったため、後期のオリエンテーションで説明した。	B	議事録	ボランティア実施の場合、教務学生課に届けることになっているが、それが周知徹底されていないためBとした。				
		8. 本学独自の学生のボランティア活動の推進と実践	・6月の植花の水やりについて、ボランティアサークルの3年生が中心になって声をかけ、水やりカレンダーに多くの名前が書かれた。夏休みは教職員が担当し、大学全体で行われた。 ・2月に1年生5名と教職員5名で、県道のバス停のまわりの除雪作業を行った。	A	議事録 大学ホームページ	試験や実習があり、除雪ボランティアの参加に偏りがあったが、学生の予定が詰まっていることと、降雪量と日程調整が関係する中で実施することを考えると、到達したと評価できる。また、植花を育てるための水やりを、学生、事務職員、教員と1つになって対応したことには大きな意味があった。ボランティアサークルとの連携によってできたことが多い。 【今後の課題】 1. 諸活動の継続と、さらなる拡大。 2. ボランティア実施の場合の、手続きに係る周知徹底。 3. ボランティアサークルとのさらなる連携の模索。				

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
3. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
国際交流委員会	1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現況や文化について学ぶ機会をつくる	1-1.介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会を設ける、中国やネパールの医療・福祉・文化について理解を深める 1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける 1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する	<p>1-1.介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会を設ける、中国やネパールの医療・福祉・文化について理解を深める</p> <p>1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける</p> <p>1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する</p>	<p>D</p> <p>D</p> <p>C</p>	<p>会議録</p> <p>会議録</p> <p>(コロナ禍のため活動なし)</p>	<p>1-1.「介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会についての活動評価は、身近な国際交流の促進のための第一歩の開催を設定できなかったため「D」評価とした。学生が在日外国人学生などに関心に向けて、身近な課題で学生間交流を図ることから開始し、交流の壁を取り除くことから始める必要があると考えられた。</p> <p>1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流については、コロナ禍の授業再開であり対面の大学間交流機会はなかった。国際学生サークル(NUTISA)会長との新たな情報交換はなかったため、「D」評価とした。感染者数減少の時期を見定めながら、学生間交流の機会を促進していくことが課題である。</p> <p>1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集と学生への紹介に関しては、コロナ禍で長岡市内の企画が中止されている状況であったため、学生への紹介は行ったものの参加希望者はなかったため「C」評価とした。</p>	<p>1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現況や文化について学ぶ機会をつくる</p>	<p>・長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける(10-11月)</p> <p>・長岡市国際交流協会開催等の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する。</p>	
	2. 海外の大学との協定締結に向けて、候補となる国、大学等について具体的に検討する	2-1. 協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討する。 2-2. 国際交流プログラムを検討するための基礎資料として、学生・教員を対象とした意識調査を実施する(前年度より継続課題)	<p>2-1. 協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討する方針であったが、進展はなかった。海外への渡航となる交流は、既に実施している大学などでもコロナ禍で中断状態であった。行動制限が不安定な状況において、本学がどのように候補地や大学を見出すかは大きな課題のままである。</p> <p>2-2. 5月の第1回委員会にて、新メンバーでの検討の結果、新たな意識調査等を行わないこととした。また、学生を始め、学内の国際交流への幅広い関心や参加を広げる目的で実施されてきた講演会開催は、講師依頼まで進んだものの、後期の時間割上の企画困難のためやむなく中止とした。今後は、他の研修会案等整理統合を行って、学生、教職員ともに多数の参加が可能な計画とするよう全学での検討を希望したい。</p>	<p>D</p> <p>D</p>	<p>(コロナ禍のため活動なし)</p> <p>会議録</p>	<p>2-1. 協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討するについては、令和2年度末の教員アンケート結果から、現在国際交流活動中の企画についての情報がなかったため「D」評価とした。</p> <p>2-2. 度第1回の委員会で「新たな意識調査を実施しない」という方針に変更したため、目標から削除したため「D」評価とした。</p>	<p>2. 海外の大学との協定締結に向けて、候補となる国、大学等について具体的に検討する</p>	<p>学生の国際的視野を広げる活動の一環として協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討する。</p>	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
国際交流委員会	3. 海外研修や国際看護活動に関する情報について広報活動を行う	3-1. 学生に向けて国際交流や海外研修についての広報活動を行う。 3-2. 海外研修・留学に関連した奨学金情報の提供 3-3. 教職員のための海外研修促進と支援を行う	長岡市の広報誌やチラシを追加したが、海外との交流活動はなく、地球広場での活動も停滞していたため参加促進活動はなかった。 日本育英会のパンフレットを、5階ロビーのパフレットスタンドに配布したが、海外研修や留学の希望、実施については問い合わせや報告がなかった。 本委員会及び教授会で「国際学会への参加補助金」の主旨と申請方法について説明を行った。教員の国際交流活動を促進するための一助とした。 1. 国際学会への参加費補助申請書の受理書、2. 国際学会への参加費補助金採択通知を作成した。9月に1件の学会参加(抄録投稿)の報告があったが、補助金申請はなかった。	C C B	5階ロビーのパフレットスタンドへの資料補充 5階ロビーのパフレットスタンドへの資料補充 EAFONSチラシの掲示 9月委員会議事録(1, 2の作成) 9月教授会への報告	3-1. 学生に向けて国際交流や海外研修についての広報活動を行うに対して、パンフレットスタンド等による後方のみであったため[C]評価とした。より広範な学生の興味関心の把握とそれらに合わせた広報活動が課題である。 3-2. 海外研修・留学に関連した奨学金情報の提供については、パンフレットスタンド等で学生への周知に努めたが、学生の反応についての評価がなかったため「C評価」とした。今後、学生の声を反映させながら、情報提供を行っていくことが課題である。 3-3. 教職員のための海外研修促進と支援を行うことについては、教員アンケート結果から、現在国際交流活動の企画についての情報がなかったため、まず「教員のための海外研修促進」をめざした。委員会予算に計上し承認されたことをもって「B評価」とした。今後は、実際にこの予算を活用し、教員の海外研修や国際交流活動の実績を1歩ずつ築いていくことが課題である。	3. 海外研修や国際看護活動に関する情報について広報活動を行う	3-1. 学生に向けて国際交流や海外研修についての広報活動を行う。 3-2. 海外研修・留学に関連した奨学金情報の提供を行う 3-3. 教職員のための海外研修促進と支援を行う。	

看護学部・看護学科の目標						
令和4年度				令和5年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく		
年度当初記載			年度末記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題
実習委員会	1. 1・2・3・4年次の実習が円滑に実施できる。	1) 実習物品の準備及び調整 2) 実習窓口担当中心にした実習病院との連携 3) 全体及び領域別実習オリエンテーションの実施・調整	(1) 実習物品 ・共通物品の事前調査により一括購入をし、6F資料室にて保管した。しかし、購入希望がなかったが、持ち出し簿に記載され使用したケースもあり、不足があり再購入をした。希望しなかった共通物品は、領域で購入するように周知した。 (2) 実習着(ユニフォーム) ・納入業者の「ことりや」「ミドリ安全」、教務・学生課と連携して実施した。主な業務は業者との調整、採寸のため場所等の準備・設置、学生オリエンテーション、採寸、注文、納品である。採寸時の感染対策を行った。 (1) 4年次生の統合実践実習 ・実習施設との調整は実習窓口の経験を活かし、混乱なく実施できた。 ・統合実践実習の契約をしている今年度学生配置をしなかった病院から、来年度は実習を受ける前提で実習受け入れ調整をしているとの返答から学生人数分の実習先の確保は可能となった。 (2) 領域別実習 ・コロナ禍であり、実習の受け入れの中止については、実習窓口担当教員から関連する担当教員に周知され、対応できた。 ・受け入れ学生数ごとに(1病棟配置人数)、担当教員1名を希望する実習施設があり、今後5人に対して1名の教員で対応できるように実習施設と連携していくことが必要である。 ・マンパワー不足の中で効率よく実習展開していくためには、臨地とさらに連携し教員の役割と実習指導者の役割から臨地の実習指導者の負担感を軽減していくことも必要である。 ・基礎看護学実習については、基礎看護学領域がオリエンテーションを担った。 ・3年次生に対して領域別実習オリエンテーションのタイムスケジュールに基づき、2コマで実習要項を基に領域代表者から実施してもらった。時期的には、昨年同様、実習メンバー及び実習場所の確認が早期にでき効果的だったと思われる。 ・4年次の統合実践実習については、前年度の3月にオリエンテーションを実施し、実習施設・病院の希望調査を行い、学生配置した。今年度は、初めての統合実践実習であったことから、実習施設、学生、教員も不慣れと考え、これまでの実習実績にあったところとした。実習指導担当教員の配置については、対応できないと申し出た領域があり、委員会で担うには困難と判断して学部長に一任した。統合実践実習の目的から、すべての教員が実習にあたることを想定していたが、領域の強い意見に対応できなかった。今後は、すべての教員が対応できる体制となるように教員に対する早期の意識付けが課題となった。(2023年度に向けて、2月9日の教授会で教員に統合実践実習のスケジュールを配布し、協力が得られるように説明した)。実習そのものは教員・学生共に実習要項に沿って円滑に行い、全体発表をスライドにグループごとにまとめて発表した。自己の課題と統合実践実習目標に合わせて実習担当教員の指導のもと実習計画を立案において、自己の課題を意識化できていない学生がいた。1年次から実習毎に自己の課題を意識化し積み重ねができるような働きかけが必要である。 ・4年次の公衆衛生看護学実習についても前年度の3月にオリエンテーションを行い、5月から初めての実習に出た。保健所・市町村、産業の実習施設と調整しながら無事実習が終了した。	B	長岡崇徳大学 実習関連 実習備品 同上ユニフォーム (2月～6月納品まで)	・目標1については、Bとした。今年度の初めての統合実践実習においては、担当者の配置において領域長の協力を得るのに困難を要した。統合実践実習が初めてであり、説明する時間も設けたが、理解を得るには至らなかった。2期生の一部学生(2人)の欠席については、実習委員会で欠席報告は受けていたが、教員の補習実習・追実習に対する考え方に温度差があったこと、欠席学生の把握後の対応方法に課題が残った。
					5月26日(木)3-4限 長岡崇徳大学 実習関連 実習ローテーション表 2022年度	
					同上 統合実践実習	
					2023年2月9日 教授会にて協力を要請した	
年度当初記載			年度当初記載			
委員会目標	年間計画					
1. 各学年の実習が円滑に実施できる。	1. 1・2・3・4年次の実習が円滑に実施できる。 1) 実習物品の準備及び調整 2) 実習窓口担当を中心にした実習病院との連携 3) 全体及び領域別実習オリエンテーション、統合実習オリエンテーションの実施・調整 4) 実習指導必要人数の要望 5) 学生情報の臨地への情報提供の基準作り 6) 実習開始時期の1週間前倒しの検討 7) 出席時間や学習内容不足への対応に係る内規作成					

看護学部・看護学科の目標								
令和4年度						令和5年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。						1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく		
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
実習委員会		4) 実習指導必要人数の要望 5) 学生情報の臨地への情報提供の基準作り	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導補助者については、成人看護学で1名採用された。実習補助者に対する経費が発生した。実習展開については、領域が把握していることから、今後は領域で賄うように実習委員会で周知した。 ・教員が実習と研究、社会貢献を過不足なく行っていくためには実習指導補助者の確保が必要となるが、退職してしまうケースがあり、実習指導補助者の育成方法及び処遇を含めた検討が必要である。 ・2022年度の退職者と実習学生数の増加による実習指導体制を整える必要があり、領域でも必要人数を要望していくこととなった。 <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある学生に対する臨地への情報提供及び支援体制については、2021年度に学生・教員共に経験していることから、問題なく実習が終了できた。 ・基準としては、本学の障がい学生支援室と連動して実施していくこととなった。 ・2期生の領域別実習での追実習・補充実習に関してコロナ禍のために濃厚接触者、陽性者となり、実習中止となった学生については、臨床側に実習中止の説明を行った。対象は5名であった。 ・体調不良や精神状態の不安定さなどを理由として実習を欠席し、時間不足及び内容不足の学生が4名であった。そのうち、診断書が提出されていれば、実習を補ってもらえたと考えていた学生もあり、教員の認識にも差がみられた。アドバイザーと実習担当教員との連携も実習業務があり、円滑に行われなかったと思われた。診断書もアドバイザーが保有しており、診断書の管理を含め、学部長と教務学生課で確認した。なかでも学生2名の欠席が顕著であった。そのうち、1名の学生はすべての実習の欠席又は内容不足により単位は未修得である。学生の実習での欠席の扱いについて、補充実習や追実習の違いについてオリエンテーションで教員及び学生に指導をしていくことが課題となった。また、実習受け入れ側が、受け持ち患者への説明に苦慮し、グループ学生はストレスとなったことから、実習欠席段階で実習施設側に予測できる場合は、説明し早期に対応していく必要性がみられた。 		長岡崇徳大学 実習関連 追・補充実習（2022年度） 診断書の保管について 協議			

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
実習委員会	2. 新たな実習施設の開拓をする。	2. 新たな実習施設の開拓 1) 領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2) 文科省の認可については事務局と連携して進める。	・2023年度の実習学生数の増加に合わせ、領域で実習展開方法の整理・工夫や新たな実習施設の確保を行った。 ・実習評価から実習要項の修正を行い、実習の目的・目標が達成できるように領域での検討が行われた。 ・実習委員会の役割分担(実習要項、統合実践実習、実習指導者会議、ユニフォーム採寸等、実習備品、実習ローテーション)に沿って、実習に関する4年間の取り組みについてまとめ、提示できるようにした。 ・実習については、実習施設の確保や指導体制について聞かれ、学生の定員が満たされた場合に向け要望していることを説明した。	A	・精神看護学 こころのクリニックウイズ ・小児看護学 国立病院機構新潟病院 東部保育園 東部どんぐり保育園 東部マドカ保育園 ・母性看護学 レディースクリニック石黒 ・在宅看護学 訪問看護ステーションみつけ ・公衆衛生看護学 富士通フロンテック株式会社新潟工場 10月20日(文科省実地調査)	・目標2については、Aとした。学生数の増加からそれを見据えて働きかけた結果、3期生の実習学生分の実習施設の確保ができた。	2. 新たな実習施設の開拓をする。	2. 新たな実習施設の開拓 1) 領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2) 文科省の認可については事務局と連携して進める。	
	3. 2023年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。	3. 2023年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。 1) 実習要項の作成および製本 2) 実習病院との契約及び必要物品の確認	・共通編の不足について、1年生に配布できず、再印刷した。要因として実習調整で多めに配布していたことが考えられた。今後、各領域で必要冊数を明確にし、必要冊を確保することとした。 ・共通編については、何年度を削除し、通年使用できることとした。このことにより、コスト削減が可能となる。 ・学生数、実習施設への配布等ある程度経験知があることから廃棄数が少なくなるように確認した。 ・領域の実習委員及び実習委員会の実習要項担当者により、期限までに実習要項の製本を行うことができた。 ・実習窓口担当が中心となり、コロナ感染防止の物品等について関係部署に伝達して実習が進められた。 ・実習施設との契約は事務局と協力した。	A	長岡崇徳大学 実習関連 役割・実習窓口 実習調整結果2022年度	・目標3については、Aとした。2年間の実習指導体制と自領域の対応できる人数等を考え、実習目標と評価から実習施設や実習内容の見直し等を行い次年度の準備をした。	3. 2024年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。	1) 実習要項の作成および製本 2) 実習病院との契約及び必要物品の確認	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
実習委員会	4. 実習施設との連携体制の強化	4. 実習施設との連携体制を整える 1) 実習指導者会議の開催 2) 実習窓口が中心となり、窓口担当役割に沿って実習調整をする。	・コロナ禍によりWEB会議として3月10日13:30～16:00開催が決定し、担当者が準備を進めている。その結果、対象31施設のうち20施設50名の参加を得て開催した。参加施設のアンケート結果から開催日時については概ね適切との回答であったが早めに開催日を知らせて欲しいとの要望があった。開催方法については、様々な意見があり、今後の課題となった。WEBで大学からの発言が聞き取りにくかったということについては、事前のオリエンテーションで強化することも課題となった。 ・4年目となり、実習病院との連携も円滑になった。 ・複数の領域が実習する施設から、窓口を一本化してほしいと要望があったが徹底ができなかった。実習施設にご迷惑をかけないよう該当領域で調整していく必要がある。	B	長岡崇徳大学 実習関連 実習指導者会議	・目標4については、Bとした。実習窓口担当との関係も深まり、円滑に進んだ。なお、実習指導者会議は開催することが出来たが、WEB開催で一部聞き取りにくい部分もあり、Bとした。	4. 実習施設との連携体制の強化	4. 実習施設との連携体制を整える 1) 実習指導者会議の実施・学生指導に関する知見の共有化 2) 実習窓口を中心とした役割に沿った実習調整 3) 欠席傾向にある学生の臨地との情報共有と早期対応 4) 教員の時間確保に向けた新たな連携の模索	
	5. コロナ禍に対応した実習への取り組みができる。	5. コロナ禍に対応した実習の取り組みができる。 1) 実習中の感染防止マニュアルの見直し 2) 学内実習に向けた環境の整備	・現在コロナは、新型インフルエンザ等感染症で、今年度はこれまでのマニュアルで実習指導をした。また、保護者に向けて領域別実習、基礎看護学実習Ⅱの開始前に協力をお願いした。 ・政府のコロナ感染対策の変更を見据えて今後見直し等が必要であるが、今年度は、実習施設も本学の感染症対策を受け入れた実習であった。 ・コロナ感染症の拡大により、実習が中止になり、学内実習において場所の確保の調整を教務・学生課と協力して実施した。5階実習室・演習室だけでは不十分のため、4階地域・在宅実習室を使用した。しかし、動線が長く暖房を入れても暖まらないことから、学生の体調管理や様子を把握するのに困難を生じた。次年度は実習室・演習室の使い方や領域の割り当てについて、領域間で共有し調整が必要である。 ・4階実習室及びB506演習室の暖房が効かないため、総務に許可を得て24時間つけたままで実習を行った。 ・B506演習室と505演習室が窓側で繋がっているため、声が漏れる。実習内容によっては使用できない場合があり、実習環境としては汎用性が低く使用しにくい。 ・急に学内実習に切り替えとなった際に、事務室が閉まってしまつと鍵が借りられず、実習室の準備ができない。実習室の鍵の管理について、事前に領域に合鍵をいただくなどの対応が必要である。 ・ON LINEでの遠隔実習は、C201、B505～509演習室でWi-Fiが接続できず、個人の携帯回線を使用して行った。今後もON LINE実習の必要性が予測されるため、実習環境の整備としてWi-Fiルーターなどの回線の増設が課題である。 ・コロナ発生が考えられることから、学内実習ができるように教員に周知していたことから、混乱なく実施できた。	A	長岡崇徳大学新型コロナウイルス感染症に対応した実習ガイドライン(学生用)	・目標5については、Aとした。学生への本学のマニュアルに沿った感染対策を教員共に遵守し対応できた。学内実習においては、オンライン実習指導体制、場所の確保等については事務局と連携して整えていく課題は残された。 【課題】 ・統合実践実習の教員配置に課題があり、統合実践実習における教員と実習指導者の役割を2022年度の経験から明確化し、学生が自主的に実習できる実習指導体制を整え、教員は学生の実習が円滑に実施されていることの確認と評価の責任を担う。 ・実習により臨地と大学双方が育ち合う協力体制を構築する。臨地実習指導者会議の活用として、実習の成果についての報告は事前に資料を送り、会議では全体の傾向をまとめて報告し、実習指導に活かせる研修を企画し、双方で意見交換をして学生の実習指導の共有化をする。 ・実習が欠席傾向にある学生を把握し、アドバイザーと実習担当者が情報交換し、早期に対応することで、教員、当事者の学生、実習グループメンバー学生、臨地の負担の軽減をはかる。	5. 感染対策を遵守した取り組みができる。	5. 感染対策を遵守した取り組みができる。 1) 実習中の感染防止マニュアルの見直し 2) 学内実習に向けた環境の整備 3) 各領域の取り組みの共有化	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
実習委員会		3)各領域の取り組みの共有化	・学内実習の内容や方法についてはそれぞれの領域で実施しているが、実習中は、授業や実習指導で共有化する時間が持てなかった。			【課題】 ・領域別実習の準備が出来ていない学生(記録が提出できない、欠席の連絡ができない、体調管理ができないなど)については、事前に情報を共有して実習指導体制を強化する。 ・新型コロナウイルス感染症対策の政府の見直しから、本学のガイドラインの見直しを行い、早期に学生に周知する。 ・実習補助者の確保と実習指導における実習指導案を含めた事前準備及び育成についての検討 ・学内実習となり、看護技術の習得が限られていることによる臨場感のある学内実習の取り組みと技術の習得を領域ごとに進め、実習委員会で紹介し自領域に活かせるようにする。 ・学内実習にむけた実習環境の整備(オンライン環境・場所の確保を含む)			

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
3. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
国家試験対策委員会	1. 1期生の看護師国家試験合格100%、保健師国家試験100%合格をめざし、イーラーニングの活用を計画に入れ、合格を達成できる計画の改善を試みながら実施できる。	1. 4年生の年間計画(別紙)に沿って、①模擬試験、業者補講、教員補講を実施する、②イーラーニングの活用ができる	1:4年生の国家試験対策として予定されていた模擬試験、業者補講、教員補講は全て実施された。イーラーニングについては、十分活用が得られなかった。国家試験後に実施したアンケートで、イーラーニングが役に立ったかどうかの問いに、「そう思わない」と回答した学生が57.9%いたことからわかる。これは受験勉強の学習課題が多く余裕がなかったこと、有効な活用方法を提示できなかったこともある。次年度からは、イーラーニングは1・2年生の漢字や解剖生理の学習に活用する方向である。看護師国家試験100%の合格率から、これまでの目標や計画が有効であったと言える。	A	委員会議事録	1期生の看護師国家試験合格率は100%であった。本学が開学当時から企画してきた国試対策メソッドは有効に機能してきたことが立証された。メソッドは固定化されたものではなく、学生の状況に応じて様々な企画が付加されてきた。このメソッドは、過去2校の大学でも100%合格が立証されてきた。メソッドの柔軟な活用が今後も効果を高めると考える。他の学年の計画された企画はすべて実施された。1～2年生は、ドリル学習で基礎力と学習習慣を付けることを目標にしてきたが、かなりの学生がドリルなどの提出物を出しており、少しずつ習慣化されてきた。3年生は、国家試験の必修問題への力を付けることを目標にしてきたが、模擬試験の結果から学力はついてきていた。なお、保健師は1名不合格となったが、国試に向けた本格的な学習開始の時期が遅すぎたことが要因と考えられた。保健師国家試験受験予定の学生がどうか、そして早めの準備を呼びかけてもそうではない学生がいる可能性を考慮に入れた対策を考えていくこと、さらに、国家試験後に実施した4年生対象のアンケート調査結果を踏まえて、本学の学生に見合う支援について検討していくことが今後の課題である。	1)各学年学習支援 4年生:看護師・保健師国家試験100%合格率を目指しゼミ担当教員と共に支援する。 3年生:国家試験の基礎知識に関し模擬試験を基に自己学習できるようにアドバイザーと支援する。 2年生:解剖生理学・病理病態学に関し模擬試験を基に知識構築目指しアドバイザーと支援する。 1年生:国家試験受験への学習方法の確立を目指し、アドバイザーと支援する。 2)学習環境の整備並びに大学への要請 大学図書館の土日開館の依頼・4年生の学習スペースの確保と整備	1. 4年生の年間計画(別紙)に沿って、①模擬試験、業者補講、教員補講を実施する。 2. 国家試験受験の必修問題を中心に模擬試験を実施し学習支援を実施する。 3. 1年生～2年生の解剖生理・病理病態学の学習取り組みの実践とその評価を実施して次年度への学習方法に繋げる。 4. 模擬試験の結果を公開し、ゼミ教員やアドバイザー教員が低学力者の把握を行い、国家試験対策委員と連携し適切な指導ができる。 5. 国家試験の環境整備:図書館の土日開館の依頼、専用の教室、グループ学習のためのゼミ室の確保、国家試験対策専用掲示板設置、図書の充実	
	2. 解剖生理の学力向上の計画を実施し、実施の都度評価し改善をする	2. 1年生～2年生の解剖生理の学習方法の改善が効果をもたらすかを評価し次の改善へと繋げる	2:解剖生理の模擬試験がなされたが、まじめに取り組む学生と取り組みが十分でない学生とに乖離して来ている。とりわけ1年生は試験を無断欠席する学生が目立つようになっていた。繰り返し、学習の意義を説明し自覚を持てるように促す必要がある。予定はすべて実施されたが学力の向上を十分に測れなかった。	B	議事録				
	3. 国家試験勉強のための環境整備を図る	3. 国家試験の環境整備:図書館の土日以降の依頼、専用の教室、グループ学習のためのゼミ室の確保、国家試験対策専用掲示板設置、図書の充実	3:国家試験の環境整備について、図書館の土日開校を定例化できていない。専用の教室は、がんばれ塾用に確保できた。しかし、グループワークができる部屋の確保は不十分であった。専用の掲示板は確保できた。以上から達成できた計画と不十分でとなった計画が見られた	C	議事録				
	4. 国家試験対策の学生の委員の活動の充実を図る	4. 国家試験対策の学生委員の活用:4年生は定期的開催し、1～4年生合同の会を年2開催し、情報交換を図る。	4:4年生の学生委員は、模擬試験や講座の集金、宿泊所やバスの確保に積極的に役割を果たしていた。1～3年生は模擬試験の料金の集金を行っていたが、2年生で金額が不足し、委員会で補充した。クラスの人数が多く集金が高額になり、学生委員だけの主体的な活動だけでは負担が大きいため、学生委員の集金行為だけでなく、学生全員の金銭の受け渡し方法と、双方の確認方法について、指導を行った。	B	議事録				
	5. アドバイザー・ゼミ教員と連携を強め、学生へのきめ細かな指導を行なう	5. 模擬試験の結果を公開し、ゼミ教員やアドバイザー教員が低学力者の把握を行い、国家試験対策委員と連携し適切な指導ができる	5:国家試験模擬試験の結果はホルダーに入れ公開してきた。多くのゼミの教員は担当学生の成績に関心を持ち個別指導やグループ学習会を開催したりしていた。しかし、少数ではあるが課題研究後に国家試験の勉強を始めた学生がおり、模試の成績がはかどらなかったが、ゼミ教員との情報交換は図れていた。	B	議事録				

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
図書館運営委員会	1. 図書館利用の促進(学生・教職員)	1-1)グループ学習室の利用環境を整える	図書館内での会話が他の学生の学習に影響することがあり学生から注意の要請があった。大声で会話している学生には口頭で注意をしたが、授業の後の課題等の確認を長い机ではグループでしている状況があった。個人機の活用などをすすめ長い机にもパーテーションを設置して会話を少なくするようにしている。また、12月から石油ストーブを1台入れているが寒い日は温度が上がらず図書館が寒いという訴えがあり、ラウンジの暖房温をあげて対応した。新しい暖房機を設置するために暖房機の見積もりを総務から出した。	B	会議録	<評価理由> 図書館の構造上において個人学習スペースとグループ学習のスペースを分けることが困難であり利用者が多くなると隣同士での会話が多くなる。<課題> 個人学習スペースとグループ学習のスペースを分けるなど環境を整えると同時に図書館利用者個々のマナーの向上に努める。			
		1-2)利用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する	毎月の利用状況を月単位で集計したが教授会、図書館だよりでは毎月の報告はしなかった。今後は月別の図書館利用状況を図書館内に掲示する等の方法を考えていきたい。	B	会議録資料	<評価理由> 図書館利用者の集計はしたが紙面で公表はできなかった。<課題> 図書館内に利用者情報等の情報を掲示できる場所を設定することを考えたい。			
		1-3)図書館だよりの発行: 学生、教職員による年2回の定期的な発行をする ・図書館だよりは、学外利用者への周知のためにも、年2回の発行を目標とする。9/30、3/31発行とし、学生オリエンテーション時に配布できるようにする。前期は図書館からのお知らせ・報告、後期は読書案内などの内容とする。	図書館だよりは、今年度は年2回発行と決め、9月と2月に第3号と第4号を予定通り発行できた。内容としては、第3号には、本学図書館が所有するデータベースの紹介、その使い方を教えるライブラリーガイドの案内、そして看護専門書の新刊書のお知らせを掲載した。第4号には学生・教員・法人職員から「私のおすすめ図書」の紹介、大学以外の方の「図書館利用の声」、学生の「図書館ニーズ調査結果」、「図書館の1年間の利用状況」等を掲載し、各号を教授会で紹介、図書館に配置した。今後は来年度の前期オリエンテーションで全学生に配布し図書館の案内と利用促進につなげること、また、昨年に引き続き保護者会、臨地実習施設、崇徳事業団へ配布も予定しており、学内と学外者の図書館利用をすすめていきたい。	A	図書館だより3・4号	<評価理由> 図書館だよりの発行は学生、教職員、外部利用者の協力を得て計画通りに年2回、9月と3月に3号と4号を発行できた。<課題> 図書館だよりの掲載内容のさらなるブラッシュアップが必要である。			
2. 教育・研究活動への利便性促進	2-1) 教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員)	2-1) 教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員)	2-1) 教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員) (1) 4学年を対象にニーズ調査を10月に実施243名中235枚を配布し、192人から回答を得た(回収率81.7%)。利用時間帯で19時以降の回答数はアンケートでは少ないが、実際には19時以降の利用者は3年生が多い傾向にある。3年生のアンケート回答率が46.1%と低くアンケート結果には反映されていないことが考えられる。よく利用する図書は専門図書が多く、充実させてほしいものと一致する、文献検索は医学中央雑誌、メディカルオンライン、J-STAGEが多く、希望する講演会・セミナーでも文献の探し方、データベースの使い方が多いことがわかった。第二図書館の利用者が少なく、存在を知らなかった、場所がわからないなど、学生へ利用できるような案内の工夫が必要である。ニーズ調査の実施と回収率が高く、学生の図書館利用状況や希望は把握できたと考える。 (2) 教員に「図書館の学会誌に関する調査」アンケートを8月に実施した。30名に依頼し12名の回答を得た(回答率36%)。教員からの回答率が低い。学会誌購入の予算は「専門雑誌図書予算」に組まれており、28の学会誌を各教員が希望している(各雑誌1~2名)。アンケート結果から購入する学会誌を決めることが出来なかった。中にはオンラインで読むことが可能な時代に図書館に学会誌は不要という意見もあった。1期生の研究に際して学会誌が図書館にほとんどない状況ではあったが論文をその都度取り寄せていた <今後検討事項> 図書館の学会誌購入について引き続き検討する。	A	議事録 会議録資料	<評価理由> 教育研究環境を充実させるための(学生、教員)にニーズ調査を行った。回収率は81.7%であった。臨地実習のために3年生の回答率が46.1%と低く、また教員からの回答率も36%と低かった。 <課題> 今後も教育・研究活動の充実を図っていくために、各学年と教員からのニーズ調査の回答率を高めるために時期、期間、方法を考えていく。			

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
図書館運営委員会	3 崇徳厚生事業団及び地域住民への広報	2-2) 図書館の電子利用を促すための環境を整える	図書館だより第3号でデータベースの紹介を行った。ライブラリーガイドの活用がありアンケート結果からも学生は全学年で医学中央雑誌やメディカルオンラインのデータベースの利用があった。1期生の看護課題研究にも多く利用されており環境が整ってきている。また、学術委員会から長岡崇徳大学研究紀要を一般公開するリポジトリ開設に伴い、その開設の手続きと今後の管理を委託され、11月10日より一般公開した。今後は医中誌にヒットできるようにしていく。	B	図書館資料 会議録資料				
		2-3) 電子資料(電子ジャーナル・文献DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う	2021年度の教員ニーズ調査では導入希望が最も多かったCINAHLを導入した。また、2023年の予算は2番目に導入希望が多かったOvid Nursing Community College Extended Journal Collectionの導入を予算申請した。 図書館だより3号にも本学所蔵のデータベースとして紹介しているため、学生と教員、学外来館者にも積極的に使ってもらうよう案内していきたい。	A	会議録	リポジトリの開設、CINAHLを導入とOvid Nursing Community College Extended Journal Collectionの導入を予算申請した。＜課題＞学生と教員に図書館の電子利用を促すために、学生には講義とライブラリーガイドを通して、教員にはライブラリーガイドを通して利用を進めていく。			
		3-1) 崇徳事業団への周知	9月と3月に崇徳厚生事業団事務所に「図書館だより」第3・4号を配布した。	B	会議録				
		3-2) 図書館利用者数を記録し、月別集計を行う	令和4年4月から12月の入館者総数は36,887人であった。月平均は4,099人、最も入館者が多い月は6月(大学主催の研修会があり参加者の発行)であり5,654人、少ない月は12月であり2,728人であった。現在の入館者数確認はセンサーで人数を確認しているため入館者が重複していることもある。正確な入館者数を得ること、そして不明図書を防止するためにも図書館の入り口に専用のゲートを設置する必要がある。令和5年度には大学からの予算にゲートの設置を要求した。	B	会議録				
4 図書館企画行事	4 図書館企画行事	3-3) 学外の図書館利用者数を記録し、月別集計を行う	令和4年4月から12月の学外の利用者の総数は317人であった。月平均は35人、最も学外入館者が多い月は6月であり95人、少ない月は12月であり40人であった。	B	図書館資料	＜評価理由＞現在の入館者数確認はセンサーで人数を確認しているため入館者が重複していることもある。 ＜課題＞正確な入館者数を得ること、そして不明図書を防止するためにも図書館の入り口に専用のゲートを設置する必要がある。令和5年度にゲートの設置を大学からの予算に要求した。			
		4-1) 図書館企画行事 ・図書館企画行事は、図書館利用説明(新入生向け)と、文献検索方法の説明を行う。文献検索の説明については、3年生を対象に1月を予定する。	10月から学生と教員向けにデータベースの使い方、文献検索等について、希望があれば説明を行っている。2月現在では、16人がライブラリーガイドに参加している。	B	会議録 図書館資料	＜評価理由＞ライブラリーガイドは10月から開始して16名であった。 ＜課題＞ライブラリーガイドの開始時期を5月からにするなど学生と教員、外部利用者に案内も出していく必要がある。			

看護学部・看護学科の目標								
令和4年度						令和5年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。						1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく		
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
図書館運営委員会	5 図書館資料の充実	5-1) 領域別資料選定(図書・雑誌・視聴覚資料)	基礎教育の担当教員が不在になり、選定者がいなくなっている。各領域に区分に入らない図書を基礎教育領域に入れることにした。各領域で資料の選定を依頼は4月から始まり8月には紙面で再度依頼しているが、12月現在では25万円×9領域で225万円の予算で341,193円の選定状況である。選定が少ない領域へは2月まで追加で選定依頼をしてほぼ予算額の選定が可能となった。次年度は領域から資料選定を早め決定し提出してもらうようにする。	A	図書館資料	<評価理由>12月の時点では図書の選定が少なかったが1月に各領域からほぼ予算に達する図書の選定ができた。 <課題>各領域への図書選定の依頼の時期を8月、そして実習期間9月から12月であるので11月から12月、1月にして、図書選定の実際と依頼案内を領域ごとに提示する必要がある。		
	6.土曜・日曜等の休日開館	6-1) 土曜・日曜等の休日開館	前期試験期間(7月～8月)の土曜日8:30～17:00に計5回の開館し、学生の利用があった。特に3回目の土曜開館はオープンキャンパスと重なり高校生にも大学図書館の休日開館と学生の図書館利用状況をアピールできた。後期試験期間の開館は雪による悪天候のため1年生の試験期間と2年生の基礎実習Ⅱの期間の土曜と休日に4日間開館した。学生の利用は延べ人数34人であった。また、毎年、学生の学生ニーズ調査でも開館時間の延長ニーズが高かったため委員会から時間外管理用員の増員の提案を行ってきた結果、2022年4月から平日21時まで開館している。19時以降の利用者数は多い時には21時まで10名前後が利用している。	A		<評価理由>前期試験期間(7月～8月)の土曜に計5回、後期試験期間と基礎実習期間の土曜と祝日開館計4回実施し学生の利用があった。また21時までの開館延長に伴う利用者も多かった。<課題>利用者実数と希望を引き続き調査していく。		
	7 第2図書室の運営	7-1) 第2図書室の運営 7-2) 図書館運営(職員の増員等)	教員から希望があり「日本看護学会論文集」108冊を第2図書室から図書館に移動した。 図書館の環境を整えるために図書館開館時間の延長に伴う管理要員の臨時職員1名が採用され4月1日より17時00分～21時00分までの4時間勤務となった。現在は1名の司書のため休暇や代休取得時には図書館が不在となることから今後は利用者へのサービス向上のために司書の増員を要求していきたい。	B B	会議録 会議録	<評価理由>第2図書室お利用者が少なかった。<課題>各学年に第2図書室の場所や使用方法を入学時オリと、授業や貼り紙等で説明し案内していく。 <評価理由>現在は1名の司書のため休暇や代休取得時には図書館の職員が不在となる <課題>学生・教員、学外利用者へのサービス向上のために司書の増員を要求していきたい。		

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする				
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
アドバイザー Ⅲ期生	学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。 4. アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。	1. 前期と後期に「面接用パーソナルシート」を用いて個別面接を行った。 2. 各科目担当者や各委員会と情報共有を行い、対応した。 1) 前期は必修科目を落とした学生が数名おり、次年度再履修することとなった。複数の科目が再履修となった学生とは、保護者とも面談を実施した。 2) 国家試験模試の結果が低迷している学生について情報共有した。 3. 授業態度の悪い学生、レポート等の遅れが目立つ学生について情報共有し、適宜面接・指導等を実施した。 4. 定例会議の情報交換で各担当学生の生活全般について把握し、学生を支援するためのアドバイザーの役割について共通認識がもてるよう、意見交換を行った。	A B B	会議録 「学生記録票」 「面接用パーソナルシート」 会議録	1. 前期と後期の初めに個別面接を実施することができ、学生の学習や生活についてタイムリーに状況を把握し相談にのることができた。 2. 3. 各科目担当者や教務委員会・学生委員会・国家試験対策委員会との連携を図ることができた。また、学生生活に課題のある学生について、各科目担当者や定例会議の中で情報共有することにより、タイムリーな対応ができた。しかし課題のある学生に対しては問題が解決していないため、評価をBとした。 4. 定例会議の中で気になる学生への対応等を検討する機会があったが、今後さらにアドバイザー教員の指導力向上のための研鑽が必要である。	1. 学生一人ひとりの個性を尊重する学修支援をする。 2. 学生が領域実習を円滑に実施できるように支援する。 3. 学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、実習委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	
アドバイザー Ⅳ期生	1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	1. 前期は5月、後期は10~11月にかけて「面接用パーソナルシート」を用いて個別面接を行った。面接結果については、アドバイザー会議で情報共有した。 2. 各科目担当者や各委員会と情報共有を行い、対応した。 1) 必修科目で再履修が必要な学生に対しては、アドバイザーが中心となって指導を行った。 2) 模擬試験等の結果については、国家試験対策委員会共有のフォルダ内にある結果を利用し、適宜指導した。 3) 提出したレポートが不適切であった学生に対しては、科目担当者とアドバイザーで指導を行った。 3. アルバイトをし、学習に支障をきたしている学生に対しては、アドバイザーが中心となって指導を行った。退学者・休学者については、アドバイザーおよびアドバイザー長とともに、本人および家族と面談を行った。他にも身体的・精神的不調を訴える学生がいた。全教員で共通理解をしてもらいたい学生についてはアドバイザー会議のみならず、教授会で報告し、理解を求めた。	A A A	・会議録 ・「学生記録票」 ・「面接用パーソナルシート」 ・会議録	1. 5月連休明けと前期の成績が出た後に個別面接を実施することができ、学生の学習や生活についてタイムリーに状況を把握し相談にのることができた。来年度も同じような時期に個別面談を実施したい。 2. 各科目担当者や教務委員会、学生委員会などとの連携を図ることができた。来年度もことある毎に各科目担当者や教務委員会などと連携をし、個別面談を実施したい。 3. 学生生活に課題のある学生に対しては、アドバイザーが中心となって指導を行うとともに、適宜アドバイザー長に報告、アドバイザー会議でも情報共有した。学生生活に課題のある学生に対しては、来年度もアドバイザーを中心に適宜適切な対応がとれるようにしたい。	1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行い、アドバイザー会議で情報共有する。 2. 学業に課題のある学生については、科目担当者、教務委員会、国家試験対策委員会などと連携をとり、学業に関する情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	
アドバイザー Ⅴ期生							1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行い、アドバイザー会議で情報共有する。 2. 学業に課題のある学生については、科目担当者、教務委員会、国家試験対策委員会などと連携をとり、学業に関する情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
子育て支援事業 (令和5年度以降は大学連携委員会所掌)	1 長岡崇徳大学における子育て支援事業の企画・運営を行い地域社会に貢献する。	1) パパママサークルの実施 2) 講演会の実施 日時: 7月末～8月上旬 テーマ: 父親の産前・産後うつの実態とその支援 (父親の子育ての意義も含めて) 講師: 竹原健二 氏(国立成育医療センター研究所 政策科学研究政策開発研究室 室長) 開催方法: 是非、対面で実施したい 対象: 子育て支援に興味関心のある方なら誰でも 受講料: 検討中	(1)実施回数および参加者 毎月1回 土曜日 10時～12時 参加者41組 ・今年度から長岡市がパパママサークルを1.5倍の回数に増やした。本学への参加は前年に比して減少したが、長岡市の申し込みができない・里帰りの方々の受け皿として機能した。 (2)教職員延人数 28名 専門職世話人延人数 7名 (3)学生サポーター延人数と内訳 22名(2年12名、3年8名、4年2名) 男子学生延べ人数3名(3年2名、4年1名)だった。 (4)アンケート結果 回答率100% ・ほとんどが長岡市からの紹介だった。 ・参加満足度は99%(パパママ合計)と非常に高く、参加することによってパパママが共に子育てすることへの意識がさらに強くなったと答えていた。特に沐浴や育児技術に関する受講ニーズが高く、DVD(事業で作成)の視聴後の個別指導に対する満足度が大変高いことがわかった。 (5)次年度に向けて ・すでにパパママサークルの日程に関しては決定し、長岡市への周知も終了している。	A	長岡崇徳大学フォルダ パパママサークル アンケート結果など	・マンパワーが少ない中、3つの事業(講演会、毎月1回のパパママサークル、学生サポーター養成講座)に取り組み、成果は大変高いが、参加者数を増やす努力は必要だと考えられる。 ・令和4年度は長岡市がパパママサークルの回数を増やすことから、本学でのパパママサークルの開催は若干少なくなったが、長岡市からはパパママサークルの継続依頼が文書にて正式にあった。次年度からワーキングではなく、大学連携委員会の中で活動していくこととなった。大学における子育て支援の在り方を模索していきたい。			

看護学部・看護学科の目標									
令和4年度					令和5年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。									
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。									
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
子育て支援事業 (令和5年度以降は大学連携委員会所掌)	2 行政や地域子育て団体との連携をすすめる。	3) 学生サポーター養成講座(4~5コマ1コース) 対象: 本学の主として1年、2年 日時: 定期試験などを勘案して決定 内容: 遊びなどの体験型授業	3) 学生サポーター養成講座(4~5コマ1コース) 対象: 本学の主として1年、2年 日時: 3月18日(土)14時~16時30分(オンライン) 内容: 講座1: 子どもの発達に合わせた遊び、講座2: 親性と子どもとの関係、講座3: 子どもの特徴と安全性を考えた子どもの世話、遊び、愛着などの講義、講座4: 赤ちゃんはなぜ泣くの?」講座5: ボランティア参加学生の感想(学生3名が担当) 参加者: 11名(1年生5名、2年生1名、3年生5名) アンケート回収 9名(11名中) 回収率81.8% 参加者アンケートの結果: 4講座ともに理解できた人は100%だった。絵本の読み聞かせの実際や質問に答えてもらうなど、オンラインの特徴を活かして、小人数だったこともあり、双方向性を意識してできた。自由記述では各講座についてわかりやすく、興味・関心を喚起することができたことがわかった。また、学生のボランティア経験では、1年生で学んでいないのに参加して大丈夫かと踏みとどまっていたが、先輩の話を聞いて参加したいと思ったなど、ボランティア参加への意欲が示された。評価: 春休みということもあり、昨年度と同様にオンラインで実施した。少人数の参加だったが、真剣に参加してくれた。春休みの時期はオンラインでも講座に参加できるため、有効だと思った。技術演習は、今回は行わず、パパママサークル等の実践場面で学べるように先輩と初心者を組み合わせるなどの工夫をしていきたい。	A	長岡崇徳大学フォルダ 議事録	・令和2年度から開始した子育て支援事業を通して長岡市子ども・子育て課とは有機的に連携し、令和4年度は母性看護学実習において母子地域包括支援の視点で子育て施設や産後ケア施設などで有意義な実習を展開している。令和5年度も連携を進めていく必要がある。 ・長岡市の「米百俵プレイス」「ミライエ長岡」の子どもラボへの本学への期待を感じられる。未来を担う子どもたちが活き活きと活動できる場を一緒に考え、できるだけ協力していきたい。			
		・パパママサークルを通しての長岡市教育委員会子ども・子育て課と連携する。 ・子育て支援施設等との連携 ・まちキャン長岡、米百俵プレイス事業などとの連携	・令和2年度から開始した子育て支援事業を通して長岡市子ども・子育て課とは有機的に連携し、令和4年度は母性看護学実習において母子地域包括支援の視点で子育て施設や産後ケア施設などで有意義な実習を展開している。 ・令和3年度の地域包括という視点の母性看護学実習の実践報告が本学紀要に掲載予定である。行政にも配布予定である。 ・JR長岡駅前に「米百俵」ゆかりの国漢学校がかつてあった場所にできる複合ビルが「米百俵プレイス」であり、マンションや銀行などの他、長岡市の「ミライエ長岡」が誕生する。2023年度から順次オープン予定である。今年度は連携できなかった。						

看護学部・看護学科の目標										
令和4年度					令和5年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく					
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。										
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。										
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
子育て支援事業 (令和5年度以降は大学連携委員会所掌)	3 学生の子育て支援に関する興味・関心を深め、活動できる基礎的知識を育てる。	・学生サポーター養成講座受講生を中心として、さまざまな子育て支援事業への参加を促進する。 ・学生サポーターが活躍できる場の開拓	・パパママサークルのサポーターとして参加し活躍している。1-1)参照 ・学内実習となった学生にパパママサークルに参加を促し3名の学生が参加し、パパママの喜びや協力し合う姿、不安にも気づくことができ有意義だったと述べている。 ・今年度は母性衛生学会や崇徳厚生事業団学会で子育て支援事業やパパママサークルの実践報告を行った。	A	長岡崇徳大学フォルダ 子育て支援事業 アンケート結果など	・A評価にした理由は、サポーター養成講座の参加者が減ってきていることは気付きであるが、パパママサークルのサポーターを継続して担う学生が複数いる。これらの学生を中心として、学生たちの力を得ていきたい。実際に講座で学生ボランティアの経験を話してもらったことは、他の学生への興味・関心を引き出すことにつながった。今年度は母性衛生学会や崇徳厚生事業団学会で子育て支援事業やパパママサークルの実践報告を行った。このことも学生の子育て支援や親性育成のために教育的効果があると考えられる。教員のマンパワーの問題はあるが、できることを工夫して継続していきたい。				

看護学部・看護学科の目標										
令和4年度					令和5年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく					
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。										
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。										
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
リカレント教育WG (令和4年度のみ)	リカレント教育担当教員は、地域の看護職者や卒業生を尊重し、地域の看護力の向上のために支援の活動を行う	1. 潜在看護師の育成や活用のための実態調査を行う 2. 現在の4年生に、卒後教育のニーズ調査を行う 3. 上記2つの調査に基づき、次年度の活動計画を年度内立てる	1. 実態調査のためのアンケートを作成し、ナースセンターにアンケートを依頼し調査した。結果30名からの有効回答を得た。この結果を新潟県医師看護師確保対策課と新潟県ナースセンターの辻理事、高橋センター長とのリモート会議で報告し、今後潜在看護師向け研修を模索することが確認された。以上の事から目標は十分に達成された。 2. 2022年度卒業生へのニーズ調査をアンケートにより行った。結果は教授会で報告された。学生から卒後教育のニーズは、あまりみられなかった。この結果は、アンケート調査の時期が卒後のイメージがついていない時期のためと考えられる。しかし、卒業生の教育的サポートは、大学として重要な案件であり、ニーズ調査としての目標は達成された。 3. 大学院設立に向けての地域のニーズ調査をするために、アンケートを作成した。作成されたアンケートは、将来構想委員会に提出した。このアンケートを用いて地域ニーズ調査をするか否かは、このワーキングが2022年度で解散するため、将来構想委員会に委ねる。これもワーキングとしての活動として役割を果たした。	A A A	2023年2月6日リモート会議資料 教授会資料	計画された目標はすべて実施され、企画1については看護協会や新潟県との連携も図れ、十分な成果を上げられた。今後、県、看護協会と連携しながら、潜在看護職の育成・活用のための研修等に活かしていくことが必要である。 卒業生に対する卒後教育に関しては、卒後教育ニーズがはっきりしない状況であるが、今後継続した対応が求められる。				

